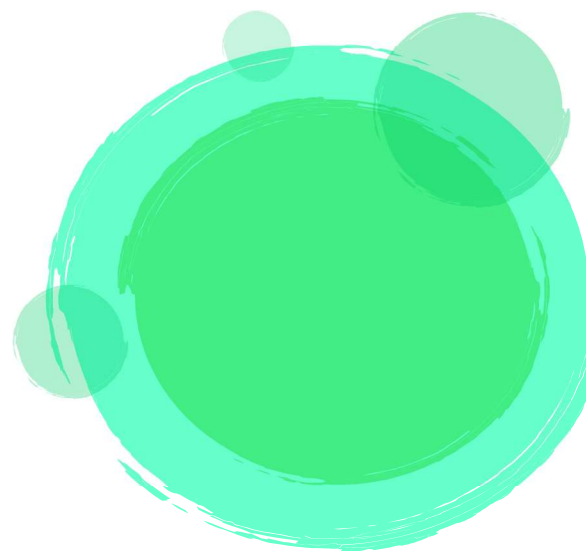


2024（令和6年度）  
石巻専修大学 大学院

経営学研究科  
〈シラバス〉



修士課程

経営学専攻

# 授業科目

## 【経営学専攻】

専攻分野	授業科目	授業形態	単位	担当教員		
経営学	経営学特論	授業・演習	4	教授	博(経営)	工藤周平
	経営管理論特論	授業・演習	4	教授	博(経営)	工藤周平
	経営組織論特論	授業・演習	4	教授		杉田博
	労務管理論特論	授業・演習	4	教授		杉田博
	マーケティング論特論	授業・演習	4	教授	博(経営)	李東勲
	金融論特論	授業・演習	4	教授		茂木克昭
	国際比較経営論特論	授業・演習	4	教授	博(国関論)	丸岡泰
	地域経営論特論	授業・演習	4	教授	博(経済)	庄子真岐
	会社法特論	授業・演習	4	教授		三森敏正
	経営学演習	授業・演習	8	教授	博(経営)	李東勲
			教授	博(経営)	工藤周平	
			教授	博(経済)	庄子真岐	
			教授		杉田博	
			教授	博(国関論)	丸岡泰	
			教授		三森敏正	
			教授		茂木克昭	
会計学	会計学原理特論	授業・演習	4	教授		関根慎吾
	管理会計論特論	授業・演習	4	准教授	博(経営)	田村真介
	簿記論特論	授業・演習	4	教授		関根慎吾
	租税法特論	授業・演習	4	教授	博(経営)	岡野知子
	会計学演習	授業・演習	8	教授	博(経営)	岡野知子
			教授		関根慎吾	
			准教授	博(経営)	田村真介	
経営情報学	経営情報論特論	授業・演習	4	教授	理博	佐々木万亀夫
	経営統計学特論	授業・演習	4	准教授	博(スポーツ健康科学)	岩浅巧
	情報経済学特論	授業・演習	4	教授	博(経済)	浅沼大樹
	情報システム構成論特論	授業・演習	4	教授	博(薬)	湊信吾
	情報ネットワーク論特論	授業・演習	4	教授	博(薬)	湊信吾
	情報資源管理論特論	授業・演習	4	教授	理博	佐々木万亀夫
	シミュレーション論特論	授業・演習	4	教授	薬博	日野博明
	経営情報システム論特論	授業・演習	4	教授	博(経済)	浅沼大樹
	経営情報学演習	授業・演習	8	教授	博(経済)	浅沼大樹
				教授	博(経営)	工藤周平
			教授	理博	佐々木万亀夫	
			教授	薬博	日野博明	
			教授	博(薬)	湊信吾	
			准教授	博(スポーツ健康科学)	岩浅巧	
	外国語専門文献講読	授業・演習	2	教授	博(国関論)	丸岡泰

## 経営学特論 (Advanced General Theory of Management)

<b>担当者</b>	教授 工藤 周平
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> <p>現在は、政治的、経済的、社会的、技術的な要因によって経営環境が絶えず変化する。企業はこのような環境に対応するために、経営環境を分析し、有効な経営戦略を策定し、それに最適な実行基盤を構築し、その実行結果を次の経営戦略に反映させるという一連のプロセスをスピード感を持って実施しなければ、経営を維持・発展させることは困難である。</p> <p>本授業では、経営戦略、経営組織、経営情報システムに焦点を当て、経営戦略の策定方法、経営戦略の実現に適した組織基盤、経営戦略の実現を支援する経営情報システムについて学習する。実際の事例を取り上げ、学生が経営戦略、経営組織、経営情報システムに関する理論を基に企業の経営行動について報告や議論を行う。</p>	
<b>[到達目標]</b> <p>学生が、経営戦略、経営組織、経営情報システムを中心に経営学の基本的な考え方や分析枠組みを理解し、それらの活用方法を修得できる。修得した知識に基づき、現実の企業経営に関する様々な問題に対して主体的に思考できる。グループワーク等を通じて、問題解決のためのコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> <p>板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。</p>	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 前期授業ガイダンス[対面]	(16) 前期授業ガイダンス[対面]
(2) 企業のマネジメントとは[対面]	(17) 企業のマネジメントとは[対面]
(3) 戦略とは何か[対面]	(18) 戦略とは何か[対面]
(4) 競争のための差別化[対面]	(19) 競争のための差別化[対面]
(5) 競争優位とビジネスシステム[対面]	(20) 競争優位とビジネスシステム[対面]
(6) 多角化と事業ポートフォリオ[対面]	(21) 多角化と事業ポートフォリオ[対面]
(7) 企業構造の再編成[対面]	(22) 企業構造の再編成[対面]
(8) 国際化の戦略[対面]	(23) 国際化の戦略[対面]
(9) 資本構造のマネジメント[対面]	(24) 資本構造のマネジメント[対面]
(10) 雇用構造のマネジメント[対面]	(25) 雇用構造のマネジメント[対面]
(11) 組織と個人、経営の働きかけ[対面]	(26) 組織と個人、経営の働きかけ[対面]
(12) 組織構造[対面]	(27) 組織構造[対面]
(13) インセンティブシステム[対面]	(28) インセンティブシステム[対面]
(14) 計画とコントロール[対面]	(29) 計画とコントロール[対面]
(15) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]	(30) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> <p>毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。</p>	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> <p>提出課題にコメントを記入し返却する。</p>	

### [教科書・参考書等]

教科書：伊丹敬之・加護野忠男、『ゼミナール経営学入門第3版』、日本経済新聞社、2003年  
参考書：必要に応じて講義中に紹介する

### [評価方法]

(1) 試験・テストについて

試験やテストは実施しない

(2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等の評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価：45%、提出物の評価：45%、グループワークの評価：10%

報告内容：各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価：レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を発展させてまとめられているか、を見る。

グループワークの評価：論理性、発言の積極性発表、聴衆を惹きつける工夫などを見る。

### [準備学習]

事前学習：次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習：前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュースに対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

### [科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、経営戦略、経営組織、経営情報システムに関する基本的な理解が必要となる。

### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館1階3116号室

メールアドレス：s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

### [オフィスアワー]

時間帯：月曜5限(16時50分～18時20分)

場所：研究室(3号館1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

## 経営管理論特論 (Advanced Business Management)

<b>担当者</b>	教授 工藤 周平
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経営環境が絶えず変化する現在では、企業は有効な成長戦略を策定し実行していかなければならない。成長戦略における重要課題として、イノベーションの創出と多角化戦略の実現がある。イノベーションの創出では、既存事業と新規事業の管理、組織能力や経営資源の管理、破壊的イノベーションへの対応などを検討する必要がある。多角化戦略では、どのような事業ポートフォリオを構築し全体をどう管理するのか、そのための組織をどう構築するのかなどを考えなければならない。 本授業では、特にイノベーションの創出と多角化経営の管理に焦点を当て、それらの理論や分析枠組みについて学習する。実際の事例を取り上げ、イノベーションや多角化に関する理論を基に企業の経営行動について報告や議論を行う。	
<b>[到達目標]</b> 学生が、イノベーションや経営の多角化に関する理論や分析枠組みを理解し、それらを活用して現実の企業の成長戦略に関する様々な問題に対して主体的に思考できる。グループワーク等を通じて、問題解決のためのコミュニケーション能力を身につけることができる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 前期授業ガイダンス[対面]	(16) 前期授業ガイダンス[対面]
(2) イノベーションという難題[対面]	(17) イノベーションという難題[対面]
(3) 探索と深化[対面]	(18) 探索と深化[対面]
(4) イノベーションストリーム[対面]	(19) イノベーションストリーム[対面]
(5) 組織文化[対面]	(20) 組織文化[対面]
(6) イノベーションストーリー[対面]	(21) イノベーションストーリー[対面]
(7) 実行面の成否[対面]	(22) 実行面の成否[対面]
(8) イノベーションの規律[対面]	(23) イノベーションの規律[対面]
(9) 両利きのための要件[対面]	(24) 両利きのための要件[対面]
(10) リーダーシップと幹部チーム[対面]	(25) リーダーシップと幹部チーム[対面]
(11) 戦略的刷新[対面]	(26) 戦略的刷新[対面]
(12) 両利きの経営解説[対面]	(27) 両利きの経営解説[対面]
(13) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面]	(28) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面]
(14) イノベーションの罨[対面]	(29) イノベーションの罨[対面]
(15) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]	(30) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 提出課題にコメントを記入し返却する。	
<b>[教科書・参考書等]</b>	

教科書：チャールズ・A・オライリー、マイケル・L・タッシュマン『両利きの経営（増補改訂版）』、東洋経済新報社、2022年  
H. I. アンゾフ(中村元一・黒田哲彦訳)『最新・戦略経営―戦略作成・実行の展開とプロセス―』産能大学出版部、1990年

参考書：必要に応じて講義中に紹介する

#### [評価方法]

(1) 試験・テストについて

試験やテストは実施しない

(2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等を評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価：45%、提出物の評価：45%、グループワークの評価：10%

報告内容：各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価：レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を進展させてまとめられているか、を見る。

グループワークの評価：論理性、発言の積極性発表、聴衆を惹きつける工夫などを見る。

#### [準備学習]

事前学習：次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習：前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュースに対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、経営戦略、経営組織に関する基本的な理解が必要となる。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号棟1階3116室

メールアドレス：s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

#### [オフィスアワー]

時間帯：月曜5限(16時50分～18時20分)

場所：研究室(3号棟1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

## 経営組織論特論 (Business Organization)

<b>担当者</b>	教授 杉田 博
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> H. A. サイモンの論理実証主義やコンティンジェンシー論者の研究スタイルに代表されるように、経営学は客観的な機能主義の立場にある。しかし、19世紀から20世紀初頭の欧米では、主観的なプロセス思想が芽生え、それをもとにした組織研究も行われたし、また1970年以降になると機能主義的発想に対するアンチテーゼとして、経営組織の解釈主義的研究が数多く登場した。 本授業では、まず経営学の目指すものは何かを捉え、次いで、機能主義と解釈主義の経営学とその意義について学ぶことを目的としたい。	
<b>[到達目標]</b> 経営組織の機能主義的研究と解釈主義的研究の双方の研究方法を理解することができる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 教科書を輪読し、その後、ディスカッションを行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(16) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(2) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(17) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(3) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(18) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(4) 組織の構造 [対面]	(19) 組織の構造 [対面]
(5) 組織の構造 [対面]	(20) 組織の構造 [対面]
(6) 組織の構造 [対面]	(21) 組織の構造 [対面]
(7) 組織化のプロセス [対面]	(22) 組織化のプロセス [対面]
(8) 組織化のプロセス [対面]	(23) 組織化のプロセス [対面]
(9) 組織化のプロセス [対面]	(24) 組織化のプロセス [対面]
(10) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	(25) 組織と環境 (組織認識論) [対面]
(11) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	(26) 組織と環境 (組織認識論) [対面]
(12) 組織と環境 (組織認識論) [対面]	(27) 組織と環境 (組織認識論) [対面]
(13) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]	(28) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]
(14) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]	(29) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]
(15) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]	(30) 組織行動 (ミクロ組織論) [対面]
<b>[アクティブラーニング取り入れ状況]</b> 発表とディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中に課題に対する説明を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：授業時に指示する。 参考書：授業時に指示する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて	
(2) 試験以外の評価方法	



(3)成績の配分・評価基準等

教科書を輪読する。発表担当者については、レジュメ、発表態度等を評価する。それ以外の学生については、質問の頻度等を評価する。出席重視。発表担当者の当日欠席は言語道断である。

**[準備学習]**

事前学習：発表レジュメ作成（120分）

事後学習：関連文献を読む（120分）

**[授業以外の学習方法]**

古典と呼ばれる書物を（難解だが）紐解いてみよう。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本授業ではさまざまな学説を検討するが、それらは他の経営学関連科目でも取り上げられると思う。キーワードを見つけて科目と科目との関連を意識したい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3219号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：木曜日2時限・昼休み・3時限

場所：3号館2階3219号室

**[備考]**

授業内容に関する質問は3219教室で随時受け付ける。

## 労務管理論特論 (Personnel and Labor Management)

<b>担当者</b>	教授 杉田 博
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経営資源の要となる「人」について学ぶ。人は欲求ややりがいなど感情を持つ点で他の資源とは異なる。したがって管理者が人（従業員、部下）をどのように捉えて管理制度を構築するかがポイントとなる。そこで本授業では、人を活かすマネジメントとは何かを考えたい。そのうえで、現代企業における人的問題、たとえばキャリアやワークライフバランスなどについて考察しよう。	
<b>[到達目標]</b> 現代企業における人間問題を理解し、その本質と解決策を述べることができる。	
〈授業の方法〉	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 本授業は受講者の発表とディスカッションを基本とする。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) ガイダンス [対面]	(16) ガイダンス [対面]
(2) 人的資源管理とは何か [対面]	(17) 人的資源管理とは何か [対面]
(3) 管理論における人間モデル (1) [対面]	(18) 管理論における人間モデル (1) [対面]
(4) 管理論における人間モデル (2) [対面]	(19) 管理論における人間モデル (2) [対面]
(5) 管理者の仕事 (1) [対面]	(20) 管理者の仕事 (1) [対面]
(6) 管理者の仕事 (2) [対面]	(21) 管理者の仕事 (2) [対面]
(7) コミュニケーション [対面]	(22) コミュニケーション [対面]
(8) 意思決定 [対面]	(23) 意思決定 [対面]
(9) 動機付け [対面]	(24) 動機付け [対面]
(10) リーダーシップ [対面]	(25) リーダーシップ [対面]
(11) 人事の仕事 (1) [対面]	(26) 人事の仕事 (1) [対面]
(12) 人事の仕事 (2) [対面]	(27) 人事の仕事 (2) [対面]
(13) 日本的経営 (1) [対面]	(28) 日本的経営 (1) [対面]
(14) 日本的経営 (2) [対面]	(29) 日本的経営 (2) [対面]
(15) まとめ [対面]	(30) まとめ [対面]
<b>[アクティブラーニング取り入れ状況]</b> 発表とディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 解説と質疑応答を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 受講者と相談して決定する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて	
(2) 試験以外の評価方法	
(3) 成績の配分・評価基準等 発表資料の準備状況 (50%)、発表とディスカッション (50%) で評価する。	

**[準備学習]**

事前学習：発表レジュメ作成（120分）

事後学習：関連文献を読む（120分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

経営者の役割など「経営管理論特論」や「経営組織論特論」と重なる領域ゆえ合わせて受講されたい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3219号室

メールアドレス：[hsugita@isenshu-u.ac.jp](mailto:hsugita@isenshu-u.ac.jp)

**[オフィスアワー]**

3号館2階3219 研究室で随時受け付ける。

## マーケティング論特論 (Advanced Marketing)

<b>担当者</b>	教授 李 東勲
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> マーケティングは、もはや一部の大企業だけの課題ではなく、殆どの企業にとっても共通した課題となっている。しかし、今日のマーケティングは、大企業を対象として発展してきたといっても過言ではない。この状況に鑑みながら、本授業では、中小企業を対象とし、マーケティングに関する専門的な関心を通して理論的な側面と実践的な側面をバランスよく研究できるように指導する。要するに、今日の中小企業のマーケティング活動を理論的に考察しながら、実践的な諸課題について研究していく予定である。	
<b>[到達目標]</b> 本授業は、マーケティングの専門知識を研究することで、国際感覚を磨くと共に、世の中の変化を的確に把握し経営に反映させていく思考力の育成を目標とする。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]：【対面形式】</b> 教科書の輪読やケーススタディの際には、発表担当者を決め、担当部分の内容をまとめて説明してもらい、それを土台にグループワークを行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
1. ガイダンスー研究の仕方について [対面]	1. ガイダンスー研究の仕方について [対面]
2. マーケティングの基礎と消費者行動分析 [対面]	2. マーケティングの基礎と消費者行動分析 [対面]
3. 流通戦略 [対面]	3. 流通戦略 [対面]
4. コミュニケーション戦略 [対面]	4. コミュニケーション戦略 [対面]
5. 物流戦略 [対面]	5. 物流戦略 [対面]
6. 中小企業の経営戦略 [対面]	6. 中小企業の経営戦略 [対面]
7. 中小企業と大企業の相違点 [対面]	7. 中小企業と大企業の相違点 [対面]
8. 中小企業の経営分析 [対面]	8. 中小企業の経営分析 [対面]
9. 韓国と米国におけるベンチャー企業 [対面]	9. 韓国と米国におけるベンチャー企業 [対面]
10. 起業家と経営戦略 [対面]	10. 起業家と経営戦略 [対面]
11. 小零細小売業の定義と現状 [対面]	11. 小零細小売業の定義と現状 [対面]
12. 小零細小売業に関する既存研究の考察 [対面]	12. 小零細小売業に関する既存研究の考察 [対面]
13. 経営目的からみる小零細小売業の分析 [対面]	13. 経営目的からみる小零細小売業の分析 [対面]
14. 流通政策 [対面]	14. 流通政策 [対面]
15. 日本における商店街の問題 [対面]	15. 日本における商店街の問題 [対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 修士課程において既存研究のレビューは研究を進める上で、必ず行わなければならない作業である。よって、本講義ではレビューにおいて絶対必要な「問題発見と解決能力」の養成を念頭におきながら、講義の理解度を確認するために「各企業が目まぐるしく変化する環境にどのように対応して成功したのか、または失敗したのか」などの事例を調査し、講義内容に基づいて分析・評価するレポートを課す予定である。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 教科書やケーススタディの内容、さらにアクティブラーニングの課題などが現場ではどう利用されるのか、またどう応用すれば良いのかについて議論しながら解説する。	
<b>[教科書・参考書等]</b>	

教科書：

(前期) 宮脇敏哉著『マーケティングと中小企業の経営戦略』産業能率大学出版部、2008

(後期) 近藤文男、陶山計介、青木俊昭著『21世紀のマーケティング戦略』ミネルヴァ書房、2001

フィリップ・コトラー著木村達也訳『コトラーの戦略的マーケティング』ダイヤモンド社、2008

### **[評価方法]**

(1)試験・テストについて

筆記試験は実施しない。

(2)試験以外の評価方法

本授業の評価基準は参加状況と発言頻度、発言内容、発表レジュメなどを総合的に判断し評価する。よって、十分な準備をしていない場合や発言しない人は評価が低くなる。

(3)成績の配分・評価基準等

受講学生の負担によって授業を進めるので、以下の3つの視点を総合的に判断して、平常点として評価する。①報告の内容(35%)、②ディスカッションの際の態度(35%)、③中間報告ならびに最終報告の内容(30%)

### **[準備学習]**

事前学習：本授業は参加型の形式をとり、理解力だけではなく探究力や表現力を養うことを目指す。したがって、絶えず新聞、雑誌などに目を通して授業に参加することを求める。また、教科書をしっかり講読し、問題意識・質問を用意しなければならない。よって、教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることも求める。(120分)

事後学習：本授業では、理解力・探究力・行動力を身につけるために礎となる基本知識を学ぶので、その日勉強した内容をまず覚えるように努めなければならない。そして、授業内容と関連する事例を調べてその理解度を向上させるように取り組むことを求める。(120分)

### **[授業以外の学習方法]**

教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることが必要である。特に、新聞・雑誌などは絶えず目を通して欲しい。

### **[科目の位置づけと他科目との関連]**

マーケティングは、企業が持続的な成長を続ける上で、重要な戦略である。したがって、マーケティング特論を受講するに当たっては、修士課程に配置されている科目を総合的に勉強する必要がある。

### **[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3210号室

メールアドレス：ldh3210@isenshu-u.ac.jp

### **[オフィスアワー]**

時間帯：随時対応する。

場所：3号館2階3210号室

メール(ldh3210@isenshu-u.ac.jp)で事前に会う約束を取るようにして下さい。

### **[備考]**

院生の研究関心によっては相談の上で、教科書や授業内容を決定する。よって、上述した授業計画は受講生の関心によって変更可能であり、一つの例である。

## 金融論特論 (Advanced Money and Banking)

<b>担当者</b>	教授 茂木 克昭		
<b>[単位・開講期]</b>	4単位・通年		
<b>[授業概要]</b>	<p>前期は、わが国の金融政策に焦点をあて、特に近年のゼロ金利政策などの経験を考える。教科書（白川）は日銀の実務者（現総裁）の手になるもので、実際の金融政策運営の機微を理解することができよう。</p> <p>後期には、国際金融論の分野について、金本位制からユーロの登場まで、国際通貨制度の史的展開に焦点をあてる。教科書は Barry Eichengreen の “Global Capital” を用いる。</p>		
<b>[到達目標]</b>	金融論・国際金融論の分野の専門的な議論を理解することを目標とする。		
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>			
<b>[授業形態]</b>			
<b>【対面形式】</b>	通常の授業形態で、テキストの理解を質疑応答を通じて達成する。		
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>		
(1) ガイダンスおよび金融政策の目標の概説 [対面]	(16) ガイダンスおよび金融政策の目標の概説 [対面]		
(2) 金融政策の目標① [対面]	(17) 金融政策の目標① [対面]		
(3) 金融政策の目標② [対面]	(18) 金融政策の目標② [対面]		
(4) 金融政策の決定① [対面]	(19) 金融政策の決定① [対面]		
(5) 金融政策の決定② [対面]	(20) 金融政策の決定② [対面]		
(6) 金利の誘導① [対面]	(21) 金利の誘導① [対面]		
(7) 金利の誘導② [対面]	(22) 金利の誘導② [対面]		
(8) 金融政策の運営① [対面]	(23) 金融政策の運営① [対面]		
(9) 金融政策の運営② [対面]	(24) 金融政策の運営② [対面]		
(10) 適切な金融政策① [対面]	(25) 適切な金融政策① [対面]		
(11) 適切な金融政策② [対面]	(26) 適切な金融政策② [対面]		
(12) 近年の金融政策運営をめぐる論点① [対面]	(27) 近年の金融政策運営をめぐる論点① [対面]		
(13) 近年の金融政策運営をめぐる論点② [対面]	(28) 近年の金融政策運営をめぐる論点② [対面]		
(14) 金融政策運営の課題① [対面]	(29) 金融政策運営の課題① [対面]		
(15) 金融政策運営の課題② [対面]	(30) 金融政策運営の課題② [対面]		
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b>	金融の時事問題に関する勉強と理解を要請する場合がある。		
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b>	レジュメ作成を通じ、事前理解を要請する。授業において、フィードバックする。		
<b>[教科書・参考書等]</b>	<p>教科書：白川方明「現代の金融政策 理論と実際」、日本経済新聞出版社（2008年） Barry Eichengreen, “Global Capital”, Second Edition, Princeton University Press（2008）</p> <p>参考書：適宜推奨する。</p>		

#### [評価方法]

(1) 試験・テストについて  
実施しない。

(2) 試験以外の評価方法  
授業における取組状況を評価する。

(3) 成績の配分・評価基準等

受講者は、毎回レポートを作成し報告し、そのうえで討議するやり方をとる。この過程を通じて理解度を評価する。

#### [準備学習]

事前学習：金融論・国際金融論の学部レベルのテキストを理解しておくことが望ましい。(30分)

事後学習：金融論・国際金融論の学部レベルのテキストを理解しておくことが望ましい。(30分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

本授業の内容は、金融の分野に関するマクロ的な内容であり、直接実務に結びつくものではないが、経営学や会計学の研究における基礎と認識することが必要である。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階3201号室

メールアドレス：[kmogi@isenshu-u.ac.jp](mailto:kmogi@isenshu-u.ac.jp)

#### [オフィスアワー]

時間帯：月・水の午後

場所：研究室（3号館2階3201号室）

#### [備考]

受講についての相談は、3号館2階3201号室にて随時対応する。メールにてアポをとるようにしてください。メールアドレス：[kmogi@isenshu-u.ac.jp](mailto:kmogi@isenshu-u.ac.jp)

## 国際比較経営論特論 (Advanced International Comparative Management)

<b>担当者</b>	教授 丸岡 泰
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 本授業では、主に日本を含む東アジアと米州の多様な主要企業を取り上げる。 議論の出発点として、前期にはレイモンド・ヴァーノンのプロダクト・サイクル論、後期には世界銀行の『東アジアの奇跡』を参加者の間で共有する。その後、それぞれの理論の適用できる企業の事例を選び精査する。企業の選択は、できるだけ参加者の関心に合わせるようにする。	
<b>[到達目標]</b> プロダクト・サイクル論と東アジアの奇跡の要点を理解する。東アジア諸国・ラテンアメリカ諸国の開発戦略と各国の代表的企業の成長との関連を理解する。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> 【対面形式】を基本とするが、参加者との相談の上【非対面形式】の同時双方向型を取る場合もある。 学生の報告と議論を中心に授業を進める。	
<b>[授業計画(前期)]</b> (1) ガイダンス[対面] (2)～(4)教科書 (Vernon) の講読[対面] (5)～(14) 繊維、自動車など主に製造業から参加者の関心に応じて企業を選択・精査[対面] (15)前期のまとめ[対面]	<b>[授業計画(前期)]</b> (1) ガイダンス[対面] (2)～(4)教科書 (Vernon) の講読[対面] (5)～(14) 繊維、自動車など主に製造業から参加者の関心に応じて企業を選択・精査[対面] (15)前期のまとめ[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 授業での報告・議論。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 報告へのコメント・議論。	
<b>[教科書・参考書等]</b> Raymond Vernon “International Trade and International Investment in the Product Cycle,” Quarterly Journal of Economics, Volume 80, Issue 2, May 1966 World Bank East Asian Miracle: economic growth and public policy, 1993	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験・テストは行わない。 (2) 試験以外の評価方法 授業での報告の質を評価する。 (3) 成績の配分・評価基準等 授業への準備と参加を重視する。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習： 指定文献の指定箇所を読むとともに関心のある企業を選択し、報告の準備をすること。 (120分) 事後学習： 指定文献の内容と選択した企業の情報を復習すること。(120分)	
<b>[科目の位置づけと他科目との関連]</b>	



本科目は担当者の学部開講科目「国際経済論」など経済学関連科目の延長上にある。また、前期の議論は「産業観光論」でも紹介されている。未履修者はこれらの授業の教科書・参考文献に目を通し、基本的な議論を押さえておくこと。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3215号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所：研究室。

## 地域経営論特論 (Advanced Regional Management)

<b>担当者</b>	教授 庄子 真岐
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 人口減少、少子高齢化、産業の空洞化など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況下において、地域に関わる複数の主体が連携しながら、地域の特徴を生かした地域づくりに活路を見出す地域も出てきている。現場では、地域資源等を活用した事業立案および地域で活動する様々な主体と連携し、事業を進めるマネジメントする能力が求められている。本授業では、これらの力を養成するため、地域経済を多角的に分析する手法を学び、地域の特徴を客観的に捉える力を身につける。さらに、国内外の多くのケーススタディを通じて、地域のマーケティングおよび地域経済におけるマネジメント組織の役割を理解する。最終的には、特定した地域の地域振興プランの策定を試みる。	
<b>[到達目標]</b> 本科目の到達目標は、地域社会が抱える構造的問題を把握するとともに、地域振興策を企画立案、実施するために必要な考え方を習得する。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> テーマに基づいた内容の文献、調査資料を予習課題として提示する。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 授業ガイダンス、地域社会の現状 [対面]	(16) 授業ガイダンス、地域社会の現状[対面]
(2) 地域研究の手法(1)[対面]	(17) 地域研究の手法(1)[対面]
(3) 地域研究の手法(2)[対面]	(18) 地域研究の手法(2)[対面]
(4) 地域社会の分析(1)[対面]	(19) 地域社会の分析(1)[対面]
(5) 地域社会の分析(2)[対面]	(20) 地域社会の分析(2)[対面]
(6) 地域のマーケティング(1)[対面]	(21) 地域のマーケティング(1)[対面]
(7) 地域のマーケティング(2)[対面]	(22) 地域のマーケティング(2)[対面]
(8) 地域のマーケティング(3)[対面]	(23) [対面]地域のマーケティング(3)[対面]
(9) 地域のマーケティング(4)[対面]	(24) 地域のマーケティング(4)[対面]
(10) 地域のマーケティング(5)[対面]	(25) 地域のマーケティング(5)[対面]
(11) 地域ブランド(1)[対面]	(26) 地域ブランド(1)[対面]
(12) 地域ブランド(2)[対面]	(27) 地域ブランド(2)[対面]
(13) 地域ブランド(3)[対面]	(28) 地域ブランド(3)[対面]
(14) 地域ブランド(4)[対面]	(29) 地域ブランド(4)[対面]
(15) 地域ブランド(5)[対面]	(30) 地域ブランド(5)[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 提示された文献や調査資料の内容を受講生がまとめ、発表する。 発表内容について教員が補足説明した後、ディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 文献購読のまとめ、プレゼンテーション、レポート課題については、評価表（ルーブリック）を用いて相互評価を行い、講義内でフィードバックする。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：なし。随時プリントを配布する。	

### [評価方法]

#### (1) 試験・テストについて

試験は実施しない。前期後期2回のレポートを課す。

#### (2) 試験以外の評価方法

プレゼンテーション、文献購読、授業への貢献度（ディスカッションへの積極的参加）により評価する。

#### (3) 成績の配分・評価基準等

本科目は、プレゼンテーション（40%）・文献購読、レポート課題（40%）・授業への貢献度（20%）によって評価する。

### [準備学習]

事前学習：提示された文献、調査資料を読み込み、発表資料としてまとめること。

事後学習：授業中の論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込んでおくこと。

### [科目の位置づけと他科目との関連]

経営学に類する科目の多くは、本科目の内容と関連する。とくに、「マーケティング論特論」は、関連性が強いと考えられる。

### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館1階3104号室（事前にアポを取る）

Teams チャットで随時対応

### [オフィスアワー]

時間帯：火から木 昼休み

場所：3号館1階3104号室、オンライン

## 会社法特論 (Corporation Law)

<b>担当者</b>	教授 三森 敏正
<b>[単位・開講期]</b>	4単位・通年
<b>[授業概要]</b>	本講では判例の詳細な分析および米独の会社法との比較を通じて、2020年に改正された会社法の理解を深めていくことを目的とする。授業は演習方式で、毎週担当者が課題についてレポートを行い、それをもとに議論を行う形式で行う。
<b>[到達目標]</b>	会社法の主要な判例と論点の理解。
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b>	演習方式。
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 会社の能力と目的の範囲[対面]	(16) 会社の能力と目的の範囲[対面]
(2) 法人格の否認[対面]	(17) 法人格の否認[対面]
(3) 設立中の会社[対面]	(18) 設立中の会社[対面]
(4) 設立の瑕疵と責任[対面]	(19) 設立の瑕疵と責任[対面]
(5) 株主平等原則[対面]	(20) 株主平等原則[対面]
(6) 株式の内容と種類[対面]	(21) 株式の内容と種類[対面]
(7) 株式譲渡制限[対面]	(22) 株式譲渡制限[対面]
(8) 自己株式[対面]	(23) 自己株式[対面]
(9) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面]	(24) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面]
(10) 名義書換の不当拒絶[対面]	(25) 名義書換の不当拒絶[対面]
(11) 募集株式の有利発行[対面]	(26) 募集株式の有利発行[対面]
(12) 募集株式の不公正発行[対面]	(27) 募集株式の不公正発行[対面]
(13) 新株発行無効[対面]	(28) 新株発行無効[対面]
(14) 株主総会の代理人資格の制限[対面]	(29) 株主総会の代理人資格の制限[対面]
(15) 株主総会招集通知の欠缺[対面]	(30) 株主総会招集通知の欠缺[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b>	
アクティブラーニングを取り入れている。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b>	
レポートについて講評し、必要に応じて添削して返却する。	
<b>[教科書・参考書等]</b>	
教科書：別冊ジュリスト 会社法判例百選 [第4版]	
参考書：神田秀樹著 会社法 [第23版] 弘文堂、江頭憲治郎著 株式会社法 [第8版]	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて 実施しない。	
(2) 試験以外の評価方法 毎回の授業における報告の準備状況および議論への貢献度。	
(3) 成績の配分・評価基準等 報告内容6割 出席4割	

**[準備学習]**

事前学習：履修者は、レポーターであるか否とに関わらず、各自教科書に記載されている判例・文献に目を通した上で授業に出席すること。(150分)

事後学習：会社法は民法の特別法であるので、民法の知識は必須である。民法の知識が不十分な場合には、各自民法の基本書などを読むなどして理解しておくこと。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

学部において、財産と法、企業組織と法、株式と法の単位を修得していることを履修条件とする。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3123号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時。

場所：3号館1階3123号室

## 経営学演習 (Seminar of Advanced Business Management)

担当者	専任教員
<p><b>[単位・開講期]</b> 8単位 (2年間)</p>	
<p><b>[授業概要]</b> 「経営学演習」では、「経営学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されることなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。</p>	
<p><b>[到達目標]</b> 研究書を読破し、プレゼンをできる。</p>	
<p>〈授業の方法〉</p>	
<p><b>[授業形態]</b> 【対面形式】【非対面形式】指導教員の指示に基づく。</p>	
<p><b>[授業計画]</b> 1. 演習の初回に説明を行う。</p>	<p><b>[授業計画]</b> 2. 演習の初回に説明を行う。</p>
<p><b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告とその質疑応答。</p>	
<p><b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。</p>	
<p><b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：別途指示する。 参考書：</p>	
<p><b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 指導教員の指示に基づく。 (2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3) 成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。</p>	
<p><b>[準備学習]</b> 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120分) 事後学習：報告した内容の精査。(120分)</p>	
<p><b>[科目の位置づけと他科目との関連]</b> 経営学演習は、教員の指導の下、修士論文を仕上げるのが目的であり、教員と相談の上、他科目の受講等、行うべきである。</p>	
<p><b>[担当教員へのアクセス]</b></p>	

研究室：指導教員の指示に基づく。

[オフィスアワー]

時間帯：指導教員の指示に基づく。

場所：指導教員の指示に基づく。

## 会計学原理特論 (Advanced Accounting Theory)

<b>担当者</b>	教授 関根 慎吾
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 一連の会計規制の改革で、簿記会計の世界は大きく様変わりしている。本授業ではこのような簿記会計を取り巻く環境の変化のなかで、特に会計に係る諸問題を検討していく。とはいえ、簿記と会計は密接に関連しており、厳密に分けることは困難になっている。したがって授業では会計の諸問題に限らず、簿記の諸問題にも検討を加えていくことになる。	
<b>[到達目標]</b> 高度な会計、特に財務諸表に関する諸問題について、その処理方法のみならず、その考え方についても理解を深め、類似する他の諸問題への対処するためのアイデアを提示できるようになる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>[対面形式]</b> 授業内容の説明と報告による質疑応答。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) [対面] 財務諸表の全体構造	(16) [対面] 財務諸表の全体構造
(2) [対面] 一般原則	(17) [対面] 一般原則
(3) [対面] 損益計算論	(18) [対面] 損益計算論
(4) [対面] 棚卸資産会計	(19) [対面] 棚卸資産会計
(5) [対面] 有形固定資産会計	(20) [対面] 有形固定資産会計
(6) [対面] 無形固定資産会計	(21) [対面] 無形固定資産会計
(7) [対面] 引当金会計	(22) [対面] 引当金会計
(8) [対面] 会計学総合演習(1)－財務諸表の作成	(23) [対面] 会計学総合演習(1)－財務諸表の作成
(9) [対面] 概念フレームワーク	(24) [対面] 概念フレームワーク
(10) [対面] 金融商品会計(1)－有価証券	(25) [対面] 金融商品会計(1)－有価証券
(11) [対面] 金融商品会計(2)－金融派生商品	(26) [対面] 金融商品会計(2)－金融派生商品
(12) [対面] リース会計	(27) [対面] リース会計
(13) [対面] 有形固定資産(2)－減損	(28) [対面] 有形固定資産(2)－減損
(14) [対面] リース会計	(29) [対面] リース会計
(15) [対面] 減損会計	(30) [対面] 減損会計
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告と質疑応答。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：桜井久勝著『財務会計講義』、中央経済社、4000円 参考書：随時指示する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて 行わない。	
(2) 試験以外の評価方法	



報告に関する質疑の内容。

(3)成績の配分・評価基準等

日頃のレポートや各種の演習課題の成績によって、総合的に評価する。

**[準備学習]**

事前学習：報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習：報告した内容の精査。(120分)

受講生には分担してテキストの内容を報告してもらおうが、報告者のみならず全ての受講者が報告者のつもりで、授業に望んでもらいたい。そのためには、テキストの予習および復習ならびに授業中にでたトピックスについての検討を行い、次回の授業で発表してもらおう。また、テキストとは別に、簿記会計の諸問題について、税理士試験財務諸表論レベルの問題に取り組む。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

簿記は会計の諸科目と密接な関連があることから、簿記論特論、管理会計論特論で勉強する内容もまた、会計学原理特論での勉強に役立つはずである。また、租税論特論は主に税務を扱うものであるが、会計に関する知識を有していることを前提に進められるので、本授業での学習は必要である。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3218号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時受け付ける。

場所：3号館2階3218号室

## 管理会計論特論 (Advanced Management Accounting)

<b>担当者</b>	准教授 田村 真介
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 伝統的管理会計の理論と技術を系統的に再確認し、管理会計上の新しい諸問題に挑戦するための手掛かりを身につけていただくべく授業を進めようと考えている。また管理会計における基礎的トピックスから応用的トピックスにわたる事項も随時授業に組み込んでゆこうと考えている。	
<b>[到達目標]</b> 経営管理および管理会計分野の修士論文の作成を志す学生諸君に役立つ知識を身につけるとともに、税理士、公認会計士等の会計専門職の資格をねらう学生諸君の計算能力の向上に資することを目標としている。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 教科書、授業計画の各テーマのレポート、およびテーマに関連する学術論文等をもとに授業を進めていく。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) ガイダンスおよび管理会計の基礎[対面]	(1) ガイダンスおよび管理会計の基礎[対面]
(2) 管理会計総説[対面]	(2) 管理会計総説[対面]
(3) 管理会計の体系—過去と現在[対面]	(3) 管理会計の体系—過去と現在[対面]
(4) 企業倫理と管理会計担当者の倫理的行動規範 [対面]	(4) 企業倫理と管理会計担当者の倫理的行動規範 [対面]
(5) 問題発見のための会計[対面]	(5) 問題発見のための会計[対面]
(6) 財務諸表分析—総説[対面]	(6) 財務諸表分析—総説[対面]
(7) 財務諸表分析—収益性・安全性・生産性分析[対面]	(7) 財務諸表分析—収益性・安全性・生産性分析[対面]
(8) キャッシュフローの分析—総説[対面]	(8) キャッシュフローの分析—総説[対面]
(9) キャッシュフロー計算書の目的と構成[対面]	(9) キャッシュフロー計算書の目的と構成[対面]
(10) キャッシュフロー計算書の作成[対面]	(10) キャッシュフロー計算書の作成[対面]
(11) 会社法と財務諸表分析[対面]	(11) 会社法と財務諸表分析[対面]
(12) 短期利益計画のためのCVP分析[対面]	(12) 短期利益計画のためのCVP分析[対面]
(13) CVP分析の必要性[対面]	(13) CVP分析の必要性[対面]
(14) CVP分析の基本公式[対面]	(14) CVP分析の基本公式[対面]
(15) 固定費と経営リスク[対面]	(15) 固定費と経営リスク[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> アクティブラーニングは実施しない。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> フィードバックとしてレポートにコメントを返す。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文字著『管理会計（第2版）』中央経済社 参考書：岡本清著『原価計算』国元書房	
<b>[評価方法]</b>	
(1)試験・テストについて 実施しない。	
(2)試験以外の評価方法	

レポート、ディスカッション。

**(3)成績の配分・評価基準等**

レポートと授業中のディスカッションを総合的に判断して評価する。  
(レポート 70%、ディスカッション 30%)

**[準備学習]**

事前学習：事前に課題を提示し、その課題に対する自分なりの考えを纏めてもらい、  
授業時にその結果をレポートとして提示してもらおう。(120分)

事後学習：レポートの不足な点を補う。また、テーマに関連する学术论文等を読了する。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本授業は、経営管理、財務管理、財務会計等の知識を基礎としているので、経営管理論特論、会計学原理特論等の授業をあわせて履修することが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3108号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：月曜日 13:30～15:00

場所：3号館1階3108号室

## 簿記論特論 (Advanced Book-keeping Theory)

<b>担当者</b>	教授 関根 慎吾		
<b>[単位・開講期]</b>			
4単位・通年			
<b>[授業概要]</b>			
<p>一連の会計規制の改革で、簿記会計の世界は大きく様変わりしている。本授業ではこのような簿記会計を取り巻く環境の変化のなかで、特に簿記に係る諸問題を検討していく。とはいえ、簿記と会計は密接に関連しており、厳密に分けることは困難になっている。したがって授業では簿記の諸問題に限らず、会計の諸問題にも検討を加えていくことになる。</p> <p>また、コンピュータと簿記会計のかかわりについても検討する予定である。</p>			
<b>[到達目標]</b>			
<p>高度な簿記の諸問題について、その処理方法のみならず、その考え方についても理解を深め、類似する他の諸問題への対処方法を身につける。</p>			
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>			
<b>[授業形態]</b>			
<b>【対面形式】</b> 授業内容の説明と報告による質疑応答。			
<b>[授業計画(前期)]</b>		<b>[授業計画(前期)]</b>	
(1) [対面] 財務諸表の体系	(16) [対面] 財務諸表の体系	(17) [対面] 利益計算の仕組み	(18) [対面] 現金預金
(2) [対面] 利益計算の仕組み	(19) [対面] 有価証券	(20) [対面] デリバティブとヘッジ会計	(21) [対面] キャッシュフロー計算書
(3) [対面] 現金預金	(22) [対面] 商品売買(1)―販売基準	(23) [対面] 商品売買(2)―回収基準	(24) [対面] 商品売買(2)―生産基準
(4) [対面] 有価証券	(25) [対面] 売上債権	(26) [対面] 棚卸資産	(27) [対面] 有形固定資産(1)―減価償却
(5) [対面] デリバティブとヘッジ会計	(28) [対面] 有形固定資産(2)―減損	(29) [対面] リース会計	(30) [対面] 無形固定資産
(6) [対面] キャッシュフロー計算書			
(7) [対面] 商品売買(1)―販売基準			
(8) [対面] 商品売買(2)―回収基準			
(9) [対面] 商品売買(2)―生産基準			
(10) [対面] 売上債権			
(11) [対面] 棚卸資産			
(12) [対面] 有形固定資産(1)―減価償却			
(13) [対面] 有形固定資産(2)―減損			
(14) [対面] リース会計			
(15) [対面] 無形固定資産			
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b>			
報告と質疑応答。			
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b>			
質疑応答によるフィードバック。			
<b>[教科書・参考書等]</b>			
教科書：桜井久勝著『財務会計講義』、中央経済社、4000円			
参考書：随時指示する。			
<b>[評価方法]</b>			
(1) 試験・テストについて 行わない。			
(2) 試験以外の評価方法			

報告に関する質疑の内容。

(3)成績の配分・評価基準等

日頃のレポートや各種の演習課題の成績によって、総合的に評価する。

**[準備学習]**

事前学習：報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習：報告した内容の精査。(120分)

**[授業以外の学習方法]**

受講生には分担してテキストの内容を報告してもらおうが、報告者のみならず全ての受講者が報告者のつもりで、授業に望んでもらいたい。そのためには、テキストの予習および復習ならびに授業中にでたトピックスについての検討を行い、次回の授業で発表してもらいたい。また、テキストとは別に、簿記の諸問題について勉強しておくことを望む。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

簿記は会計の諸科目と密接な関連があることから、会計学特論、管理会計論特論で勉強する内容もまた、簿記論特論での勉強に役立つはずである。また、租税論特論は主に税務を扱うものであるが、簿記に関する知識を有していることを前提に進められるので、本授業での学習は必要である。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3218号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：月曜日4限目

場所：3号館2階3218号室

## 租税法特論 (Advanced Tax Law)

<b>担当者</b>	教授 岡野 知子
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> ① 租税法の意義と性質の理解 ② 租税法の基本原則である租税法律主義、租税公平主義の内容の理解 ③ 租税実体法の課税要件の理解 ④ 租税判例研究 以上の4項目について下記の授業計画に従い修得する。	
<b>[到達目標]</b> 社会における租税の意義とその重要性を理解したうえで、理論と制度の両面から租税法を修得する	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 授業計画に沿った内容の説明と質疑応答。	
<b>[授業計画(前期)]</b> (1) 租税の意義 [対面] (2) 租税の根拠 [対面] (3) 租税法の意義 [対面] (4) 租税制度の沿革 [対面] (5) 租税法の基本原則 ① [対面] (6) 租税法の基本原則 ② [対面] (7) 租税法の基本原則 ③ [対面] (8) 租税法の法源 [対面] (9) 租税法の解釈と適用 [対面] (10) 租税実体法の意義 [対面] (11) 租税要件総論① [対面] (12) 租税法の基本原則② [対面] (13) 租税法の基本原則③ [対面] (14) 課税要件各論①(総説) [対面] (15) 課税要件各論②(総説) [対面]	<b>[授業計画(後期)]</b> (16) 租税の意義 [対面] (17) 租税の根拠 [対面] (18) 租税法の意義 [対面] (19) 租税制度の沿革 [対面] (20) 租税法の基本原則 ①(租税法律主義) [対面] (21) 租税法の基本原則 ②(租税公平主義) [対面] (22) 租税法の基本原則 ③(自主財政主義) [対面] (23) 租税法の法源 [対面] (24) 租税法の解釈と適用 [対面] (25) 租税実体法の意義 [対面] (26) 租税要件総論①(納税義務者) [対面] (27) 租税法の基本原則②(課税物件) [対面] (28) 租税法の基本原則③(課税標準と税率) [対面] (29) 課税要件各論①(総説) [対面] (30) 課税要件各論②(総説) [対面]
*各授業では、事前学習(授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集)後、授業でディスカッションをおこない、事後学習(授業で習得した内容の復習)をおこなうこと。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 授業でレジュメ等をもとにディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> ディスカッション後の提出レポートにコメントを付し返却する。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書:金子 宏著 『租税法』第24版 弘文堂 7,150円 参考書:適宜紹介する。	

**[評価方法]**

(1) 試験・テストについて  
実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

レジュメ、報告内容、ディスカッション内容・参加度による評価方法。

(3) 成績の配分・評価基準等

レジュメ、報告、ディスカッションにより総合的に評価する。

**[準備学習]**

事前学習：授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集。(120分)

事後学習：授業で習得した内容の復習。(120分)

**[授業以外の学習方法]**

- ・雑誌掲載論文、書籍、新聞等の資料収集
- ・レジュメおよび論文の作成方法の習得、Power Pointによる報告内容の作成およびプレゼンテーションの練習ディスカッションへの活発な参加

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

会計科目、民法、会社法と密接な関係があるので、併せて受講または研究してほしい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3209号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：授業終了後または昼休み

場所：研究室（3号館2階3209号室）

**[備考]**

質問はメールにても受け付ける。

## 会計学演習 (Seminar in Accounting)

担当者	専任教員
<b>[単位・開講期]</b> 8単位 (2年間)	
<b>[授業概要]</b> 「会計学演習」では、「会計学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されることなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。	
<b>[到達目標]</b> 会計学は会計という実務を研究対象とする学問である。したがって、会計の諸問題について、その処理方法自体の理解に努めることは当然のことである。しかしながら、個々の処理方法を理解するだけでは会計行為全体を統合的に理解したとは言えないし、そのようにして作成された財務諸表やその他の会計情報が有用であるとは言えない。有用な会計情報を作成するという観点から、各々の処理方法が持つ意味やその目的を、会計目的観や基礎的な考え方を踏まえて理解することが重要になってくるのである。本授業では、会計の基礎的概念に基づいて会計諸問題を理解することを目標としている。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】【非対面形式】</b> 指導教員の指示に基づく。 演習。	
<b>[授業計画]</b> 論文テーマの選定と論文作成のための質疑応答を毎回行う。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告とその質疑応答。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 別途指示する。	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 行わない。 (2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3) 成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120分) 事後学習：報告した内容の精査。(120分)	
<b>[授業以外の学習方法]</b>	



近年、会計を取り巻く環境は大きく変わりつつある。特に IFRS による会計の国際的統合化の過程にあって、国内の会計制度も再構築を迫られている。この過程で導入されてくる新しい会計処理について、基本的な理解が授業の中で求められることになる。専門誌などでこれらの動向については把握しておく必要がある。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

会計関連の諸科目で学習した内容や会計観をどのように理解したかが、修士論文の作成過程で試されることになる。また、その他の科目でも経営学や金融論などに関する知識も、会計諸問題を理解する上で必要となりうる。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：指導教員の指示に基づく。

**[オフィスアワー]**

時間帯：指導教員の指示に基づく。

場所：指導教員の指示に基づく。

**[備考]**

本授業についての質問等は、各担当教員に直接問い合わせること。

## 経営情報論特論 (Advanced Business Information Theory)

<b>担当者</b>	教授 佐々木 万亀夫
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経営情報論に深く関連するコンピュータシミュレーションについて、モンテカルロ法を題材としてコンピュータシミュレーションの基礎理論と応用例を学習する。	
<b>[到達目標]</b> コンピュータシミュレーションの基礎的手法を修得する。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 文献講読が中心の「講義・演習」形式である。	
<b>[授業計画]</b>	
(1)モデルとシミュレーション [対面]	
(2)連続変化モデルと離散変化モデル [対面]	
(3)離散変化システムのシミュレーション技法 [対面]	
(4)確率過程の表現 (乱数) [対面]	
(5)モンテカルロ法の基礎 [対面]	
(6)基礎的なプログラミング 1 (乱数発生法) [対面]	
(7)モンテカルロ法の一般原理 [対面]	
(8)主部の分離 [対面]	
(9)加重サンプリング [対面]	
(10)層別サンプリング [対面]	
(11)負相関の方法 [対面]	
(12)ヘイパーの方法 [対面]	
(13)条件付きモンテカルロ法 [対面]	
(14)モンテカルロ法と数値解析 [対面]	
(15)多変数問題 [対面]	
(16)モンテカルロ法とシミュレーション [対面]	
(17)基礎的なプログラミング 2 (待ち行列) [対面]	
(18)基礎的なプログラミング 3 (複数の窓口) [対面]	
(19)社員食堂モデル [対面]	
(20)応用プログラミング 1 (券売機) [対面]	
(21)応用プログラミング 2 (社員食堂モデル) [対面]	
(22)道路交差点モデル (一つの交差点) [対面]	
(23)応用プログラミング 3 (一つの交差点) [対面]	
(24)道路交差点モデル (複数の交差点) [対面]	
(25)応用プログラミング 4 (複数の交差点) [対面]	
(26)道路交通システム [対面]	
(27)道路交通システムの特徴 [対面]	
(28)応用プログラミング 5 (道路交通システム) [対面]	
(29)環境アセスメント [対面]	
(30)シミュレーションの今後の可能性 [対面]	
ディスカッションを適宜授業中に行う。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> ディスカッションを行う。	

**[課題に対するフィードバック方法]**

授業中に適宜フィードバックをする。

**[教科書・参考書等]**

教科書：プリントを配布する。

参考書：適宜指示する。

**[評価方法]**

(1) 試験・テストについて

実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3) 成績の配分・評価基準等

教科書の内容理解等の平常点（100％）で評価する。試験を行わない予定であるが、理解度が低い場合はレポートの提出をしてもらう。

**[準備学習]**

教科書の予習および復習が必要である。特に、数式・統計の内容が豊富であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習：教科書の予習（150分）

事後学習：理解が出来なかった事項の復習（90分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

学部および大学院の数理的な科目と関連があるので、履修しておくことが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3120号室

メールアドレス：msasaki@isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時

場所：3号館1階3120号室

**[備考]**

特になし。

## 経営統計学特論 (Advanced Business Statistics)

<b>担当者</b>	准教授 岩浅 巧
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 意思決定を行う際、統計的方法を使ったデータ分析に基づくアプローチは有力な方法の一つである。主要な統計的方法について理論的な面を理解し、簡単に手法については、実際に適用できるようにプログラムを作成できるようにしていく。	
<b>[到達目標]</b> 統計の考え方、手法を正確に理解し、データ分析に適用する場合の意義について理解する。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 指定書籍や指定論文に基づいて説明をした後に実習を行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) データサンプリング(1)[対面]	(16) データサンプリング(1)[対面]
(2) データサンプリング(2)[対面]	(17) データサンプリング(2)[対面]
(3) データサンプリング(3)[対面]	(18) データサンプリング(3)[対面]
(4) 度数分布とグラフ(1)[対面]	(19) 度数分布とグラフ(1)[対面]
(5) 度数分布とグラフ(2)[対面]	(20) 度数分布とグラフ(2)[対面]
(6) 中心の位置の特性値(1)[対面]	(21) 中心の位置の特性値(1)[対面]
(7) 中心の位置の特性値(2)[対面]	(22) 中心の位置の特性値(2)[対面]
(8) 中心の位置の特性値(3)[対面]	(23) 中心の位置の特性値(3)[対面]
(9) 散らばりの特性値(1)[対面]	(24) 散らばりの特性値(1)[対面]
(10) 散らばりの特性値(1)[対面]	(25) 散らばりの特性値(1)[対面]
(11) 散らばりの特性値(2)[対面]	(26) 散らばりの特性値(2)[対面]
(12) 散らばりの特性値(3)[対面]	(27) 散らばりの特性値(3)[対面]
(13) 相関[対面]	(28) 相関[対面]
(14) 回帰(1)[対面]	(29) 回帰(1)[対面]
(15) 回帰(2)[対面]	(30) 回帰(2)[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> アクティブラーニングは実施しない。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 課題提出後に解説を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：参考書籍や参考論文については、適宜講義中に紹介する。 参考書：	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて 実施しない。	
(2) 試験以外の評価方法 講義内での発表と事前課題、討論への参加等。	
(3) 成績の配分・評価基準等 講義内での発表と事前課題（60%）、討論への参加状況（40%）等を総合的に評価する。	

**[準備学習]**

事前学習：予習として指定書籍や指定論文の該当箇所について事前読了を求め、かつレジュメにまとめて講義時に発表してもらうことがある。各回の予習には90分～120分かかると想定される。

事後学習：復習として指定書籍や指定論文の該当箇所について事前読了を求め、かつレジュメにまとめて講義時に発表してもらうことがある。各回の予習には90分～120分かかると想定される。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

統計学やプログラミングの基本的な考え方については、学部時代に習得できていることを前提とする。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3214号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時。授業終了後でも可。

場所：研究室3号館2階3214号室

**[備考]**

講義内容に関する質問は、随時受け付ける。

情報経済学特論 (Information Economics)

<b>担当者</b>	教授 浅沼 大樹
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 従来の経済学は、取引関係者は同じ情報を共有するという完全情報を仮定していた。情報経済学では、情報の獲得には費用がともなうと仮定し、不完全な情報の下での意思決定をもたらす種々の問題とその解決策を検討する。本授業においては、前期に経済学の柱となる基礎理論を学習し、後期に市場価格メカニズムの有効性などを学習し、さらに、最近の研究トピックである限定合理性、実験経済学などの問題について考察する。	
<b>[到達目標]</b> 経済学の考え方を習得する。	
＜授業の方法＞	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b>	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 情報経済学とは [対面]	(16) 情報経済学とは [対面]
(2) 消費者の決定 (1) [対面]	(17) 消費者の決定 (1) [対面]
(3) 消費者の決定 (2) [対面]	(18) 消費者の決定 (2) [対面]
(4) 消費者の決定 (3) [対面]	(19) 消費者の決定 (3) [対面]
(5) 需要関数 (1) [対面]	(20) 需要関数 (1) [対面]
(6) 需要関数 (2) [対面]	(21) 需要関数 (2) [対面]
(7) 需要関数 (3) [対面]	(22) 需要関数 (3) [対面]
(8) 需要関数 (4) [対面]	(23) 需要関数 (4) [対面]
(9) 生産の理論 (1) [対面]	(24) 生産の理論 (1) [対面]
(10) 生産の理論 (2) [対面]	(25) 生産の理論 (2) [対面]
(11) 生産の理論 (3) [対面]	(26) 生産の理論 (3) [対面]
(12) 競争市場均衡 (1) [対面]	(27) 競争市場均衡 (1) [対面]
(13) 競争市場均衡 (2) [対面]	(28) 競争市場均衡 (2) [対面]
(14) 競争市場均衡 (3) [対面]	(29) 競争市場均衡 (3) [対面]
(15) 競争市場均衡 (4) [対面]	(30) 競争市場均衡 (4) [対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b>	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 振り返り用のレポートをもとに学生が理解しやすいようにテキストや実習を見直していく。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：授業時に指示をする。 参考書：以下のテキストはよく用いられている。英語文献に慣れる意味でも取り組んでほしい。 ・Varian, H.R., <i>Microeconomic Analysis</i> , 3rd edition, Norton, 1992 (日本語訳：ハル.R. ヴァリアン「ミクロ経済分析」勁草書房) ・Mas-Colell, A., M.D. Whinston, and J.R. Green, <i>Microeconomic Theory</i> , Oxford University Press, 1995.	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて	

試験は行わない

(2) 試験以外の評価方法

テキストの報告内容で評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

教科書・論文の輪読 (60%)，演習問題 (30%)，受講姿勢 (10%) により評価する。

**[準備学習]**

事前学習：予習は必ず行うこと。また，数学を多く用いるため，学部授業「経営数学」レベルの数学知識を前提とする。忘れてしまっている人は復習をしておくこと。(120分)

事後学習：自身の報告内容と授業内での議論を踏まえてテキストの理解を確実なものとする。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

統計学などの数理的な科目の他，経済問題を扱うため経営学とも関連が深い。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：授業時に伝える。

**[オフィスアワー]**

時間帯：相談や質問には適宜応じる。

場所：

**[備考]**

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

## 情報システム構成論特論 (Advanced Information Systems Design)

<b>担当者</b>	教授 湊 信吾
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 企業、大学などの様々な組織においてコンピュータを使用した情報システムは今や必須なものとなっている。情報システムを構築するに当たりまず業務の分析を行う必要がある。コンピュータシステムにおいてはデータの入出力の流れをとらえることが必要になってくる。前期には簡単な業務分析を行い情報システムの全体像のとらえ方について授業を行う。後期には実行環境として Ruby on Rails を使用して実際に e-ラーニングにおける学修支援システムを構築してみる。	
<b>[到達目標]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システムを構築するための業務分析を行うことができるようになる</li> <li>・サーバとデータベースを使用した情報システムを構築できるようになる</li> <li>・Ruby を使用した情報システムを構築できるようになる</li> </ul>	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書 : Sam Ruby and David Bryant Copeland、Agile Web Development with Rails 5.1、Pragmatic Bookshelf、2017 参考書 : Dave Thomas, Andy Hunt and Chad Fowler、Programming Ruby 1.9 & 2.0、Pragmatic Bookshelf、2013	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験は行わない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回、授業の振り返りのために簡単なレポートを提出してもらおう。また、授業や実習への取り組み方、質問に対する用語の適切な使い方、プログラミングの能力について評価を行う。 (3) 成績の配分・評価基準など 毎回のレポートと実習により評価を行う。毎回のレポートにおいては授業でどのようなことを行い専門的な用語を理解しているか、実習においては作業の進行状況を見て評価を行う。実習におけるプロジェクトの進行状況 (45%)、質問に対する用語の適切な使い方 (25%)、プログラミング (30%) の配分となる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(後期)]</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション、前期の授業に必要なものについて</li> <li>(2) e-ラーニングにおける学修支援システムについて</li> <li>(3) 学修支援システムに関わる業務を概念図に描く</li> <li>(4) 業務におけるデータの流れを概念図に加える</li> <li>(5) 業務における入力データを集める</li> <li>(6) 業務システムにおける入力データのフォーマットを決める</li> <li>(7) 業務における出力を集める</li> <li>(8) 業務システムにおける出力データのフォーマットを決める</li> <li>(9) モデル、ビュー、コントロール (MVC) について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション、後期の実習に必要な環境について</li> <li>(2) プログラミングの実行環境の準備</li> <li>(3) 実行環境をプロトタイプによりテストする</li> <li>(4) e-ラーニングにおける学修支援システムの MVC について</li> <li>(5) 学修支援システムにおける情報の流れを概念図にまとめる</li> <li>(6) 学修支援システムにおける画面の遷移について考える</li> <li>(7) 学修支援システムにおけるイベントについて考える</li> <li>(8) 入出力データのフォーマット</li> <li>(9) 入力画面の作成</li> <li>(10) データの処理</li> </ol>



- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| (10) データベースによりモデルを構築する                     | (11) 出力画面の作成                     |
| (11) データベース上のデータを処理する（コントロール）際のイベントについて考える | (12) ユーザの管理とセキュリティについて           |
| (12) イベントをもとにデータベース上のデータを処理する              | (13) 学修支援システムのテスト用のデータの準備        |
| (13) 処理したデータを出力する（ビュー）                     | (14) 学修支援システムのテスト                |
| (14) 構築した情報システムをテストする方法について                | (15) 実習で作成した情報システムについてのプレゼンテーション |
| (15) 情報システムの設計についてプレゼンを行ってもらう              |                                  |

#### [アクティブラーニング取り入れ状況]

プログラミングの実習を行う。課題についてプレゼンテーションを行ってもらう。

#### [授業形態]

教科書をもとに説明と実習を行う。ただし、教科書ではショッピングサイトを例にしているので、学習支援システムの概要ならびに補足事項についてはテキストを用意し説明を行う。

#### [課題に対するフィードバック方法]

疑問に思った点についてはすぐに質問してもらいたい。その時に自分がわからない部分について相手に質問の意図がはっきりわかるように説明してもらいたい。時間外においてはメールで質問してもらう。当日中に回答する予定である。

#### [準備学習]

事前学習：Ruby、HTML、CSS、JavaScriptなどの各言語に慣れておく必要がある。また、データベースに関する知識や、SQL、Webサーバの仕組み、オブジェクト指向の考え方などにも慣れておく必要があるため参考書やWeb上の情報をもとに通り勉強することが望ましい。どの程度まで勉強すればよいかについてはオリエンテーションで説明する。(120分)

事後学習：自分がシステムを構築するにあたって授業時間内に作業が完了することはないと思う。そのため、次回までにある程度プログラムを作っておく必要がある。どこまで進めたらよいかについては、作業の進行具合を見ながら指導する。(120分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

学部においてアルゴリズムやプログラミング、オペレーティングシステム、通信ネットワークに関する授業を履修しておくことが望ましい。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館1階3126号室

メールアドレス：minato@isenshu-u.ac.jp

#### [オフィスアワー]

時間帯：随時対応。メールにてアポを取ることに。

場所：3号館1階研究室3126号室

## 情報ネットワーク論特論 (Advanced Internet Programming)

<b>担当者</b>	教授 湊 信吾
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 情報ネットワークが関わる分野では次のような新しい技術が利用されるようになってきている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックチェーンによる分散型台帳管理システム</li> <li>・IoT とクラウドによるデータ収集と分析のシステム</li> <li>・人工知能のアルゴリズムを使用したデータ処理</li> </ul> 今後も情報処理分野では新しい技術が登場してくることが予想される。このような技術をすぐに吸収するために必要な基礎の部分について授業や実習を行う。また、学んだことの応用として社会における問題を一つ選び、この問題を解決するためのシステムについて提案してもらうことを考えている。	
<b>[到達目標]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理の基礎をしっかりと身につけることで最新の技術にも対応できるようになる</li> <li>・問題を分析しシステムの設計について提案することができるようになる。</li> </ul>	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：プログラミング言語の教科書については言語を選択後指定する。 参考書： <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターフェース 2017年7月号、はじめてのIoT、CQ 出版社</li> <li>・インターフェース 2018年10月号、IT 農耕実験、CQ 出版社</li> <li>・インターフェース 2019年3月号、算数&amp;電子工作から始める量子コンピュータ、CQ 出版社</li> <li>・ブロックチェーンアプリケーション開発の教科書、加寄長門、篠原航 著、マイナビ</li> <li>・インターフェース 2018年8月号、なるほどブロックチェーン、CQ 出版社</li> <li>・A Peer-to-Peer Electronic Cash System、Satoshi Nakamoto、<a href="https://bitcoin.org/bitcoin.pdf">https://bitcoin.org/bitcoin.pdf</a></li> </ul>	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験は行わない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回、授業の振り返りのために簡単なレポートを提出してもらう。また、実習への取り組み方、質問に対する用語の適切な使い方、プログラミングの能力、システム設計におけるプロジェクトの進め方に対し評価を行う。 (3) 成績の配分・評価基準など 毎回のレポートと実習により評価を行う。毎回のレポートにおいては授業でどのようなことを行い専門的な用語を理解しているか、実習においては作業の進行状況を見て評価を行う。実習におけるプロジェクトの進行状況 (45%)、質問に対する用語の適切な使い方 (25%)、プログラミング (30%) の配分となる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(後期)]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) オリエンテーション、実習に必要な環境について</li> <li>(2) プログラミングの実行環境の準備、言語の選択</li> <li>(3) センサーからデータを集める</li> <li>(4) センサーから集めたデータをインターネットに送信する</li> <li>(5) プロトコルについて</li> <li>(6) クラウドについて</li> <li>(7) クラウドで使用する言語について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 選別を行うために必要なデータの収集</li> <li>(2) 収集されたデータから特徴量を計算する</li> <li>(3) 特徴量を使用して選別を行ってみる</li> <li>(4) 選別について改良を行う</li> <li>(5) プロジェクトについてのプレゼンテーション</li> <li>(6) ブロックチェーンを理解するために必要な知識について整理する</li> <li>(7) ハッシュ関数を試す</li> </ul>

- |                           |                                      |
|---------------------------|--------------------------------------|
| (8) クラウドのサービスを利用する        | (8) 公開鍵暗号法について試す                     |
| (9) クラウドにファンクションを登録する     | (9) P2P 型のネットワークを構築する                |
| (10) クラウドのデータベースにデータを保存する | (10) ブロックチェーンで何を管理するのかについて考える        |
| (11) データをグラフに表現する         | (11) ブロックチェーンのシステムを構築する              |
| (12) プロジェクトについてのプレゼンテーション | (12) ブロックチェーンのシステムを検証する              |
| (13) 人工知能のアルゴリズムについて      | (13) プロジェクトについてのプレゼンテーション            |
| (14) 簡単な選別のシステムについて考える    | (14) 授業で使用した技術を用いたシステムについて提案するための準備  |
| (15) 選別するシステムの構成          | (15) 授業で使用した技術を用いたシステムについてのプレゼンテーション |

#### [アクティブラーニング取り入れ状況]

プログラミングの実習や、課題についてプレゼンテーションを行ってもらう。

#### [授業形態]

毎回テキストを用意するので、これをもとに説明と実習を行う。

#### [課題に対するフィードバック方法]

疑問に思った点についてはすぐに質問してもらいたい。その時に自分がわからない部分について相手に質問の意図がはっきりわかるように説明してもらいたい。時間外はメールで質問してもらう。当日中に回答する予定である。

#### [準備学習]

事前学習：授業中で取り組むプロジェクトの進め方を見ながら指導していく。そのためには OS、コンピュータネットワーク、プログラミングについて基本的な知識を自分で勉強しておく必要がある。(120 分)

事後学習：プロジェクトを進めるにあたり、時間内に終わらないことが予想される。次回までにどこまで完成させるのかを常に頭に描き授業に臨んでほしい。(120 分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

学部においてアルゴリズムやプログラミング、オペレーティングシステム、通信ネットワークに関する授業を取っておくことが望ましい。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3 号館 1 階 3126 号室

メールアドレス：minato@isenshu-u.ac.jp

#### [オフィスアワー]

時間帯：随時対応。メールにてアポを取ること。

場所：3 号館 1 階の研究室 3126 号室

## 情報資源管理論特論 (Security of Information Resources)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 現代社会において、『情報』は極めて基本的な構成要素の一つとなっている。そのため、『情報』を管理するということが非常に重要になってきている。ICT化が進展している日本において省庁や大手企業の極秘情報が流出するという事件が相次いでいることはゆゆしき事態である。情報の管理に関して我が国は世界的にみて遅れており、今後さらに大きい問題が起こりうる可能性が高いと考えられる。従って、情報管理を上手に行うことが必要かつ重要となってくる。そこで本授業では、ネットワーク・プロトコルである IPv6 を学習しながら、情報管理の基本概念、理論および方法について学習する。	
<b>[到達目標]</b> 情報通信技術に関する文献・資料は、元をたどれば洋書である場合がほとんどである。そこで、情報通信技術に関する専門用語の理解および専門書の読解を本授業の到達目標とする。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 文献講読が中心の「講義・演習」形式である。	
<b>[授業計画]</b>	
(1) Computer Use [対面]	
(2) Data Security Policies [対面]	
(3) Standards [対面]	
(4) Network Design [対面]	
(5) DMZ [対面]	
(6) Defense in Depth 1: Routers [対面]	
(7) Defense in Depth 2: Encryption [対面]	
(8) Defense in Depth 3: Servers [対面]	
(9) Defense in Depth 4: Training & Awareness [対面]	
(10) Authentication [対面]	
(11) Authorization [対面]	
(12) Security and the Mobile Employee [対面]	
(13) Data on Laptops [対面]	
(14) Business Continuity Planning [対面]	
(15) Post-Disaster: Reassess the Plan [対面]	
(16) Hackers [対面]	
(17) Snoops [対面]	
(18) Viruses [対面]	
(19) Personal Issues [対面]	
(20) Hiring Practices [対面]	
(21) Security in the Organizational Hierarchy [対面]	
(22) Contractual Considerations [対面]	
(23) Insurance [対面]	
(24) Notification of a Security Breach [対面]	
(25) Data Privacy Laws [対面]	
(26) Ramification of a Data Breach [対面]	
(27) Social Security Numbers [対面]	
(28) Credit/Debit Card Account Numbers [対面]	
(29) Overseas Outsourcing 1: Country Variance [対面]	
(30) Overseas Outsourcing 2: Security [対面]	

ディスカッションを適宜授業中に行う。

**[アクティブラーニングの取り入れ状況]**

ディスカッションを行う。

**[課題に対するフィードバック方法]**

授業中に適宜フィードバックをする。

**[教科書・参考書等]**

教科書：Philip Alexander, “Information Security”,  
Greenwood Publishing Group, Inc. (2008)

4,000～5,000 円（為替相場による）

参考書：適宜指示する。

**[評価方法]**

(1) 試験・テストについて

実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3) 成績の配分・評価基準等

教科書の内容理解等の平常点（100％）で評価する。試験を行わない予定であるが、理解度が低い場合はレポートの提出をしてもらう。

**[準備学習]**

教科書の予習および復習が必要である。特に、テキストが洋書であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習：教科書の予習（180 分）

事後学習：教科書の予習および復習（60 分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

英語の読解力養成のため、併せて外国語専門文献購読を履修することが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3 号館 1 階 3120 号室

メールアドレス：msasaki@isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時

場所：3120 研究室

**[備考]**

特になし。

## シミュレーション論特論 (Advanced Simulation)

<b>担当者</b>	教授 日野 博明
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> シミュレーションは、自然現象・社会現象を真似することである。モデルをうまく作ることにより、実際に体験することのできない事象についても体験でき理解することができる。そのためには、今起きている現象を注意深く観察し、その本質を簡潔に表現できる手法を見つけ出す必要がある。 この授業では、シミュレーションの基本的に手法を実際のモデルを用いて説明し、理解を深めていく。さらに高等学校まででは学ばない高等数学についても解説し、シミュレーションのモデル化の選択の幅を広げていく。また、経営工学的な視点からオペレーションズ・リサーチの手法を取り入れ、経営分析、経営の最適化、需要予測などに役立つようなアルゴリズム、プログラムとして作り上げて生きたい。さらに、データ保護の面から暗号についても取り上げ、いくつかの具体的なプログラムとして作り上げていく。	
<b>[到達目標]</b> シミュレーションにおける具体的なモデル化について理解し、実装を行う。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 資料に基づいて説明をした後に実習を行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 大学教養程度の数学の復習 1 [対面]	(16) 大学教養程度の数学の復習 1 [対面]
(2) 大学教養程度の数学の復習 2 [対面]	(17) 大学教養程度の数学の復習 2 [対面]
(3) 大学教養程度の数学の復習 3 [対面]	(18) 大学教養程度の数学の復習 3 [対面]
(4) 大学教養程度の数学の復習 4 [対面]	(19) 大学教養程度の数学の復習 4 [対面]
(5) 微積分 1 [対面]	(20) 微積分 1 [対面]
(6) 微積分 2 [対面]	(21) 微積分 2 [対面]
(7) 整数論 1 [対面]	(22) 整数論 1 [対面]
(8) 整数論 2 [対面]	(23) 整数論 2 [対面]
(9) シミュレーションモデル研究 1 [対面]	(24) シミュレーションモデル研究 1 [対面]
(10) シミュレーションモデル研究 2 [対面]	(25) シミュレーションモデル研究 2 [対面]
(11) シミュレーションモデル研究 3 [対面]	(26) シミュレーションモデル研究 3 [対面]
(12) シミュレーションモデル研究 4 [対面]	(27) シミュレーションモデル研究 4 [対面]
(13) 暗号のアルゴリズム 1 [対面]	(28) 暗号のアルゴリズム 1 [対面]
(14) 暗号のアルゴリズム 2 [対面]	(29) 暗号のアルゴリズム 2 [対面]
(15) 暗号のアルゴリズム 3 [対面]	(30) 暗号のアルゴリズム 3 [対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 前期 (1)～後期 (15) まですべて。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 課題提出後解説を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：関根智明・高橋磐郎・若山邦紘著「シミュレーション」 日科技連 参考書：石村園子著「やさしく学べる微分積分」 共立出版 結城浩著「暗号技術入門」ソフトバンクパブリッシング 森雅夫・森戸進 他著「オペレーションズ・リサーチ I、II」 朝倉書店	

#### [評価方法]

(1) 試験・テストについて  
実施しない。

(2) 試験以外の評価方法  
レポートとプログラミングによる評価。

(3) 成績の配分・評価基準等  
課題のレポート（50%）と課題モデルプログラミング（50%）による。

#### [準備学習]

事前学習：線形代数学、統計学については、事前に大学時代の教科書を元に復習しておくこと。  
(120分)

事後学習：授業時間内だけでは、課題の完成は難しいので、時間を見つけて自主的に作業を進めること。  
(180分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

基本的な考え方・プログラミングについては、学部時代に習得できていることを前提とする。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階3224号室

#### [オフィスアワー]

時間帯：随時。授業終了後でも可。

場所：研究室3号館2階3224号室

#### [備考]

授業内容に関する質問は、随時受け付ける。

## 経営情報システム論特論 (Management Information System)

<b>担当者</b>	教授 浅沼 大樹	
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年		
<b>[授業概要]</b> 経営情報システムの沿革、現状および将来の方向について学習する。企業経営の視点から、経営情報システムの戦略的価値を正しく理解できる能力を養成することを目的とする。		
<b>[到達目標]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営における情報技術（IT）の役割とその重要性を理解できる。</li> <li>・ITの進歩に伴う経営情報システムの発展経緯および歴史的意義を理解できる。</li> <li>・最新の経営情報システムの現状と課題を把握できる。</li> </ul>		
〈授業の方法〉		
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 授業形式の授業を行う。		
<b>[授業計画(前期)]</b>		<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) ガイダンス、経営情報システムの概要 [対面]	(16) ガイダンス、経営情報システムの概要 [対面]	
(2) 経営情報システム発展史概観 (1) [対面]	(17) 経営情報システム発展史概観 (1) [対面]	
(3) 経営情報システム発展史概観 (2) [対面]	(18) 経営情報システム発展史概観 (2) [対面]	
(4) 経営情報システム発展史概観 (3) [対面]	(19) 経営情報システム発展史概観 (3) [対面]	
(5) 経営情報システム発展史概観 (4) [対面]	(20) 経営情報システム発展史概観 (4) [対面]	
(6) 経営情報システム (MIS) 入門[対面]	(21) 経営情報システム (MIS) 入門[対面]	
(7) 経営情報システム (MIS) 事例[対面]	(22) 経営情報システム (MIS) 事例[対面]	
(8) 経営情報システム (MIS) 応用[対面]	(23) 経営情報システム (MIS) 応用[対面]	
(9) 意思決定支援システム (DSS) 入門[対面]	(24) 意思決定支援システム (DSS) 入門[対面]	
(10) 意思決定支援システム (DSS) 事例[対面]	(25) 意思決定支援システム (DSS) 事例[対面]	
(11) 意思決定支援システム (DSS) 応用[対面]	(26) 意思決定支援システム (DSS) 応用[対面]	
(12) 戦略的情報システム (SIS) 入門[対面]	(27) 戦略的情報システム (SIS) 入門[対面]	
(13) 戦略的情報システム (SIS) 事例[対面]	(28) 戦略的情報システム (SIS) 事例[対面]	
(14) 戦略的情報システム (SIS) 応用[対面]	(29) 戦略的情報システム (SIS) 応用[対面]	
(15) 前期まとめ[対面]	(30) 前期まとめ[対面]	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 後期13回目および14回目の授業において実施するレポートの報告・討論が、アクティブラーニング(2回)である。		
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 後期13回目および14回目の授業で、レポートの返却・解説を行う。		
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：(1) 宮川公男・上田泰 (編著) 『経営情報システム』 [第4版]、2014年3月、中央経済社。 (2) 島田達巳・高原康彦 (共著) 『経営情報システム』 [改訂第3版]、2007年2月、日科技連。 (3) 経営情報学会情報システム発展史特設研究部会 (編) 『明日のIT経営のための情報システム発展史 [総合編]』、2010年9月、専修大学出版局。		
<b>[評価方法]</b>		



(1) 試験・テストについて

試験は行わない

(2) 試験以外の評価方法

テキストの報告内容で評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

レポート (50 点)、授業への貢献度 (50 点) にて総合評価する。

レポート：後期授業後半に課すレポートを評価する。

授業への貢献度：毎回出席者に発言を求める。また、授業のリアクション・ペーパーの提出で理解度を把握する。教員の一方的な授業にならないよう積極的な態度で授業に貢献してほしい。

**[準備学習]**

事前学習：予習は授業出席のための前提である。予習内容等については各授業終了直前に指示する。

(120分)

事後学習：復習は課題レポートを作成することで代える。課題 (テーマ) 等はその都度、指示する。

専門用語が多いため、復習が絶対的に必要である。欠席や遅刻をするとレポートの作成に支障をきたす恐れがあるため注意が必要である。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

実習ではビジネス上の問題を扱うため、経営学分野の授業を履修して業務知識やビジネスセンスを得ておくことが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：授業時に伝える。

**[オフィスアワー]**

時間帯：相談や質問には適宜応じる。

場所：

**[備考]**

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

## 経営情報学演習 (Seminar of Business Information Theory)

担当者	専任教員																																
<p><b>[単位・開講期]</b> 8単位 (2年間)</p>																																	
<p><b>[授業概要]</b> 「経営情報学演習」では、「経営情報学」という専攻分野の枠内で、それぞれの演習担当教員が担当する授業科目と結びつく研究分野を中心としながらも限定されることなく、各担当教員の実際の研究領域に関連するテーマについて、修士論文作成のための研究指導を行う。学生には、志望する演習担当教員との面談機会を提供し、各教員の担当する授業科目を参考にしながら、自分の関心に対応する指導が受けられる教員を、指導教員として選べるような機会を提供する。 各々のテーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には修士論文の作成へと繋げる。</p>																																	
<p><b>[到達目標]</b> 各演習担当教員の研究指導の下で研究を深め、各自が設定したテーマについて修士論文をまとめる。</p>																																	
<p><b>&lt;授業の方法&gt;</b></p>																																	
<p><b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b>を基本とする。 指導教員の指示に基づく。 文献講読、資料の分析、調査を行う。「講義・演習」形式である。</p>																																	
<p><b>[授業計画]</b> 演習の初回に担当教員より説明があるが、概ね以下のような計画である。2年次には1年次の研究を踏まえ、修士論文執筆の指導を行なう。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>(前期)</th> <th>(後期)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 研究テーマの決定</td> <td>(16) 研究テーマの決定</td> </tr> <tr> <td>(2) 研究計画作成</td> <td>(17) 研究計画作成</td> </tr> <tr> <td>(3) 研究テーマに関する文献の講読 1</td> <td>(18) 研究テーマに関する文献の講読 1</td> </tr> <tr> <td>(4) 研究テーマに関する文献の講読 2</td> <td>(19) 研究テーマに関する文献の講読 2</td> </tr> <tr> <td>(5) 研究テーマに関する文献の講読 3</td> <td>(20) 研究テーマに関する文献の講読 3</td> </tr> <tr> <td>(6) 研究テーマに関する文献の講読 4</td> <td>(21) 研究テーマに関する文献の講読 4</td> </tr> <tr> <td>(7) 研究テーマに関する文献の講読 5</td> <td>(22) 研究テーマに関する文献の講読 5</td> </tr> <tr> <td>(8) 研究テーマに関する文献の講読 6</td> <td>(23) 研究テーマに関する文献の講読 6</td> </tr> <tr> <td>(9) 研究テーマに関する文献の講読 7</td> <td>(24) 研究テーマに関する文献の講読 7</td> </tr> <tr> <td>(10) 研究テーマに関する文献の講読 8</td> <td>(25) 研究テーマに関する文献の講読 8</td> </tr> <tr> <td>(11) 研究テーマに関する文献の講読 9</td> <td>(26) 研究テーマに関する文献の講読 9</td> </tr> <tr> <td>(12) 研究テーマに関する文献の講読 10</td> <td>(27) 研究テーマに関する文献の講読 10</td> </tr> <tr> <td>(13) 研究テーマに関する資料の精査 1</td> <td>(28) 研究テーマに関する資料の精査 1</td> </tr> <tr> <td>(14) 研究テーマに関する資料の精査 2</td> <td>(29) 研究テーマに関する資料の精査 2</td> </tr> <tr> <td>(15) 研究テーマに関する資料の精査 3</td> <td>(30) 研究テーマに関する資料の精査 3</td> </tr> </tbody> </table> <p>ディスカッションを適宜授業中に行う。</p>		(前期)	(後期)	(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定	(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成	(3) 研究テーマに関する文献の講読 1	(18) 研究テーマに関する文献の講読 1	(4) 研究テーマに関する文献の講読 2	(19) 研究テーマに関する文献の講読 2	(5) 研究テーマに関する文献の講読 3	(20) 研究テーマに関する文献の講読 3	(6) 研究テーマに関する文献の講読 4	(21) 研究テーマに関する文献の講読 4	(7) 研究テーマに関する文献の講読 5	(22) 研究テーマに関する文献の講読 5	(8) 研究テーマに関する文献の講読 6	(23) 研究テーマに関する文献の講読 6	(9) 研究テーマに関する文献の講読 7	(24) 研究テーマに関する文献の講読 7	(10) 研究テーマに関する文献の講読 8	(25) 研究テーマに関する文献の講読 8	(11) 研究テーマに関する文献の講読 9	(26) 研究テーマに関する文献の講読 9	(12) 研究テーマに関する文献の講読 10	(27) 研究テーマに関する文献の講読 10	(13) 研究テーマに関する資料の精査 1	(28) 研究テーマに関する資料の精査 1	(14) 研究テーマに関する資料の精査 2	(29) 研究テーマに関する資料の精査 2	(15) 研究テーマに関する資料の精査 3	(30) 研究テーマに関する資料の精査 3
(前期)	(後期)																																
(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定																																
(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成																																
(3) 研究テーマに関する文献の講読 1	(18) 研究テーマに関する文献の講読 1																																
(4) 研究テーマに関する文献の講読 2	(19) 研究テーマに関する文献の講読 2																																
(5) 研究テーマに関する文献の講読 3	(20) 研究テーマに関する文献の講読 3																																
(6) 研究テーマに関する文献の講読 4	(21) 研究テーマに関する文献の講読 4																																
(7) 研究テーマに関する文献の講読 5	(22) 研究テーマに関する文献の講読 5																																
(8) 研究テーマに関する文献の講読 6	(23) 研究テーマに関する文献の講読 6																																
(9) 研究テーマに関する文献の講読 7	(24) 研究テーマに関する文献の講読 7																																
(10) 研究テーマに関する文献の講読 8	(25) 研究テーマに関する文献の講読 8																																
(11) 研究テーマに関する文献の講読 9	(26) 研究テーマに関する文献の講読 9																																
(12) 研究テーマに関する文献の講読 10	(27) 研究テーマに関する文献の講読 10																																
(13) 研究テーマに関する資料の精査 1	(28) 研究テーマに関する資料の精査 1																																
(14) 研究テーマに関する資料の精査 2	(29) 研究テーマに関する資料の精査 2																																
(15) 研究テーマに関する資料の精査 3	(30) 研究テーマに関する資料の精査 3																																
<p><b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> ディスカッション、資料の分析、調査は、アクティブラーニングそのものである。</p>																																	
<p><b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中に適宜フィードバックをする。</p>																																	
<p><b>[教科書・参考書等]</b></p>																																	

担当教員より別途指示する。

#### [評価方法]

(1) 試験・テストについて

担当教員より別途指示する。

(2) 試験以外の評価方法

担当教員より別途指示する。

(3) 成績の配分・評価基準等

討論の状況 (20%)、論文内容 (60%)、論文発表 (20%) により評価する。

#### [準備学習]

担当教員より別途指示するが、合計で 240 分必要。

事前学習：事後学習と合わせて 240 分。

事後学習：事前学習と合わせて 240 分。

#### [授業以外の学習方法]

修士論文を執筆するにあたり、授業以外の時間を十分に活用して、必要な資料の収集、調査分析等を継続的に行なう必要がある。また、大学院生相互に研究に関する議論を活発に行なうこと。

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

概ね「経営情報学」の分野に該当する科目を履修することが必要である。また、各学生が設定したテーマの修士論文作成のための研究指導を行うが、そのために履修が必要な科目については、指導教員より別途指示する。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：担当教員より別途指示する。

メールアドレス：担当教員より別途指示する。

#### [オフィスアワー]

時間帯：担当教員より別途指示する。

場所：担当教員より別途指示する。

#### [備考]

研究進行状況等について、各演習担当教員とのコミュニケーションを欠かさないこと。

## 外国語専門文献講読 (Advanced Foreign Treatises)

担当者	教授 丸岡 泰
<b>[単位・開講期]</b> 隔週、2単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 東日本大震災後の本学でも見られたように、災害後の被災地に多くのボランティアが集まる現象は世界的に観察される。それは被災者の便益になる一方で、場合によっては不利益ともなる。ボランティアという自発的・利他的・無償の労働力に最低限の秩序をもたらし、不利益が起これにくくするための仕組みについて理論的な検討は必要である。この仕組みによる秩序化を管理と呼ぶことも可能だが、その用語自体、ボランティアからは嫌悪されるため使用が困難である。用語の是非はさておき、この授業では、必要な仕組みについて外国での災害事例から形成された理論を検討することで災害ボランティアについての諸問題を理解する。また、ボランティアに関連する NGO・NPO についても議論を行う。	
<b>[到達目標]</b> 災害ボランティアの特徴と「巻き込み／排除パラドックス」を理解する。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> 【対面形式】を基本とするが、参加者との相談の上【非対面形式】の同時双方向型を取る場合もある。学生の報告と教員との議論を中心に授業を進める。	
<b>[授業計画]</b> (1) ガイダンス[対面] (2) ～(29) テキスト購読[対面] (30) 要点のまとめ[対面]	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 参加者の予習・報告と議論・意見交換。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 参加者がテキストの割り当て部分をあらかじめ読み、その翻訳を用紙にまとめた発表骨子とともに行った口頭報告に対し、教員が論点を提示し、意見交換を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：Margaret Harris*, Duncan Shaw, Judy Scully, Chris M. Smith, Graham Hieke [2017] “The involvement/exclusion paradox of spontaneous volunteering: new lessons from winter flood episodes in England” Nonprofit and Voluntary Sector Quarterly, Volume46, 2, 1 Apr 2017 (必要な範囲のコピーを配布) 参考書：桜井政成編著[2013]『東日本大震災と NPO・ボランティア』ミネルヴァ書房	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 予習と報告の質を評価する。 (3) 成績の配分・評価基準等 報告の質 (70%) と授業の理解状況 (30%)。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習：必ず予定範囲まで自分なりの翻訳を行ってくること。(120分) 事後学習：英文と翻訳を読み比べ、授業での論点と英文の意味を復習する。(120分)	

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本科目は非営利組織経営論の延長に位置付けられる。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3215号館

**[オフィスアワー]**

時間帯：メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所：研究室

# 博士後期課程 經營學專攻

# 授業科目

## 【経営学専攻】

専攻分野	授業科目	授業形態	単位	担当教員
経営学	経営学特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経営) 工藤周平
	経営管理論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経営) 工藤周平
	経営組織論特殊研究	授業・演習	4	教授 杉田博
	労務管理論特殊研究	授業・演習	4	教授 杉田博
	マーケティング論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経営) 李東勲
	国際比較経営論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(国関論) 丸岡泰
	地域経営論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経済) 庄子真岐
	会社法特殊研究	授業・演習	4	教授 三森敏正
	経営学演習	授業・演習	12	教授 博(経営) 李東勲 教授 博(経営) 工藤周平 教授 博(経済) 庄子真岐 教授 杉田博 教授 博(国関論) 丸岡泰 教授 三森敏正
会計学	会計学原理特殊研究	授業・演習	4	教授 関根慎吾
	簿記原理特殊研究	授業・演習	4	教授 関根慎吾
	租税法特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経営) 岡野知子
	会計学演習	授業・演習	12	教授 博(経営) 岡野知子 教授 関根慎吾
経営情報学	経営統計学特殊研究	授業・演習	4	教授 博(経済) 浅沼大樹
	情報システム構成論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(薬) 湊信吾
	情報ネットワーク論特殊研究	授業・演習	4	教授 博(薬) 湊信吾
	情報資源管理論特殊研究	授業・演習	4	教授 理博 佐々木万亀夫
	シミュレーション論特殊研究	授業・演習	4	教授 薬博 日野博明
	経営情報学演習	授業・演習	12	教授 理博 佐々木万亀夫 教授 薬博 日野博明 教授 博(薬) 湊信吾 教授 博(経済) 浅沼大樹
	外国語専門文献研究	授業・演習	2	教授 理博 佐々木万亀夫

## 経営学特殊研究 (Advanced General Theory of Management)

<b>担当者</b>	教授 工藤 周平
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> <p>企業を存続させるためには経営環境にうまく対応することが最も重要になる。現在は、政治的、経済的、社会的、技術的な要因によって経営環境が絶えず変化する。今日では予測困難な経営環境の変化もしばしば起こっており、企業は多くの経営問題に直面している。</p> <p>本講義では、世界的に評価の高い学術雑誌である「ハーバード・ビジネス・レビュー」の重要論文を題材に、経営学の理論や分析枠組みを学習する。授業で取り上げる論文の主張に基づいて、理論や分析枠組みの現代的意義や現代の企業経営に関する問題について議論を行う。</p>	
<b>[到達目標]</b> <p>学生が、経営学に関する重要論文の主張を理解する。経営学に関する重要論文の主張に基づき、現代の企業経営の問題について主体的に考え、実践的指針を示すことができる。</p>	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> <p>板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。</p>	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 前期授業ガイダンス[対面]	(16) 前期授業ガイダンス[対面]
(2) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面]	(17) イノベーションのジレンマへの挑戦[対面]
(3) (2)の現代的意義の考察と議論[対面]	(18) (2)の現代的意義の考察と議論[対面]
(4) ブルー・オーシャン戦略[対面]	(19) ブルー・オーシャン戦略[対面]
(5) (4)の現代的意義の考察と議論[対面]	(20) (4)の現代的意義の考察と議論[対面]
(6) 自己探求の時代[対面]	(21) 自己探求の時代[対面]
(7) (6)の現代的意義の考察と議論[対面]	(22) (6)の現代的意義の考察と議論[対面]
(8) マネジャーの仕事[対面]	(23) マネジャーの仕事[対面]
(9) (8)の現代的意義の考察と議論[対面]	(24) (8)の現代的意義の考察と議論[対面]
(10) バランススコアカードの導入インパクト[対面]	(25) バランススコアカードの導入インパクト[対面]
(11) (10)の現代的意義の考察と議論[対面]	(26) (10)の現代的意義の考察と議論[対面]
(12) イノベーションの罨[対面]	(27) イノベーションの罨[対面]
(13) (12)の現代的意義の考察と議論[対面]	(28) (12)の現代的意義の考察と議論[対面]
(14) 企業変革の落とし穴[対面]	(29) 企業変革の落とし穴[対面]
(15) (14)の現代的意義の考察と議論[非対面：同時双方向型]	(30) (14)の現代的意義の考察と議論[非対面：同時双方向型]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> <p>毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。</p>	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> <p>提出課題にコメントを記入し返却する。</p>	
<b>[教科書・参考書等]</b> <p>教科書：ハーバード・ビジネス・レビュー編集部、『ハーバード・ビジネス・レビューBEST10 論文』、ダイヤモンド社、2018年</p>	



ハーバード・ビジネス・レビュー編集部、『IoTの衝撃』、ダイヤモンド社、2016年  
参考書：必要に応じて講義中に紹介する

#### [評価方法]

##### (1) 試験・テストについて

試験・テストは実施しない

##### (2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等の評価する

##### (3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価：50%、提出物の評価：30%、議論の評価：20%

報告内容：各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価：レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を  
発展させてまとめられているか、を見る。

議論の評価：論理性、妥当性、意欲を見る。

#### [準備学習]

事前学習：次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習：前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュース  
に対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

経営学、経営戦略、経営組織、経営情報システムに関する基本的な理解が必要となる。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号棟1階3116室

メールアドレス：s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

#### [オフィスアワー]

時間帯：月曜5限(16時50分～18時20分)

場所：研究室(3号棟1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

## 経営管理論特殊研究 (Advanced Research in the Business Management)

<b>担当者</b>	教授 工藤 周平
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経営環境が絶えず変化する現在では、企業は有効な成長戦略を策定し実行していかなければならない。成長戦略における重要課題として、有効なマネジメントと組織のイノベーションの実現がある。そのためには、外部環境と戦略と組織の相互作用、また、トップ・マネジメントの役割を理解しなければならない。 本授業では、世界的に評価の高い先駆的経営書の古典である『組織は戦略に従う』の著書を題材に、企業を成長させるための経営管理の方法を学習する。授業で学習した理論や知識の現代的意義や現代の経営管理に関する問題について議論を行う。	
<b>[到達目標]</b> 学生が、成長戦略における外部環境と戦略と組織の相互作用、またトップ・マネジメントの役割を理解する。学習した知識を使って、現代の経営管理の問題について主体的に考えることができる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 板書とパワーポイントを活用しながら、講義形式ですすめる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 前期授業ガイダンス[対面]	(16) 前期授業ガイダンス[対面]
(2) 戦略と組織[対面]	(17) 戦略と組織[対面]
(3) アメリカでの経営管理の端緒[対面]	(18) アメリカでの経営管理の端緒[対面]
(4) 組織の構築[対面]	(19) 組織の構築[対面]
(5) さらなる成長[対面]	(20) さらなる成長[対面]
(6) 集権的な組織[対面]	(21) 集権的な組織[対面]
(7) 多角化戦略[対面]	(22) 多角化戦略[対面]
(8) 新戦略にふさわしい組織づくり[対面]	(23) 新戦略にふさわしい組織づくり[対面]
(9) デュラントの戦略[対面]	(24) デュラントの戦略[対面]
(10) スローンの組織構想[対面]	(25) スローンの組織構想[対面]
(11) 新組織を動かす[対面]	(26) 新組織を動かす[対面]
(12) 1925年以前の戦略と組織[対面]	(27) 1925年以前の戦略と組織[対面]
(13) 第1弾の組織改編[対面]	(28) 第1弾の組織改編[対面]
(14) 分権的な事業部制の創設[対面]	(29) 分権的な事業部制の創設[対面]
(15) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]	(30) 学習の総括とプレゼンテーション[非対面：同時双方向型]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 毎回の講義の内容について学生にプレゼンテーションを課す。講義のテーマについて、ディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 提出課題にコメントを記入し返却する。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：アルフレッド・D・チャンドラー, Jr 『組織は戦略に従う』、ダイヤモンド社、2004年 参考書：必要に応じて講義中に紹介する	
<b>[評価方法]</b>	

(1) 試験・テストについて

試験・テストは実施しない

(2) 試験以外の評価方法

学生の報告の内容、レポートなどの提出物、議論やグループワーク等の評価する

(3) 成績の配分・評価基準等

報告内容の評価：50%、提出物の評価：30%、議論の評価：20%

報告内容：各授業テーマの理解度、プレゼン資料などの発表方法を見る。

提出物の評価：レポートや課題を課し、それらが指示通りの内容か、深く考えられているか、思考を  
発展させてまとめられているか、を見る。

議論の評価：論理性、妥当性、意欲を見る。

**[準備学習]**

事前学習：次回の授業内容に該当する部分について調査し、疑問点などをまとめる。(90分)

事後学習：前回のノートや配布したプリント等を参考にして復習する。授業内容に関連したニュース  
に対して、学習した知識を用いて分析する。(150分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

経営学、経営戦略、経営組織に関する基本的な理解が必要となる。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号棟1階3116室

メールアドレス：s3467012@edu.isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯：月曜5限(16時50分～18時20分)

場所：研究室(3号棟1階3116室)

※オフィスアワーなどで研究室を訪問する際は、前もって連絡すること

## 経営組織論特殊研究 (Advanced Business Organization)

<b>担当者</b>	教授 杉田 博
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経営組織を「質的」に研究する。アンケートや統計調査に基づく研究を「定量的」と呼ぶのに対して、現場観察やインタビューに基づく研究を「定性的」と呼ぶ。1970年代以降、社会科学の分野で登場した定性的研究、つまり質的研究は、ギアツ (Geertz, C.) の「分厚い記述」という言葉に示されるように、人々の語りや現場での出来事（行動の意味など）を丹念に読み解いていく研究スタイルと言える。本研究では組織におけるさまざまな「意味」を、エスノグラフィーやナラティブアプローチなどの研究から捉えたい。	
<b>[到達目標]</b> 経営組織の機能主義的研究と解釈主義的研究の双方の研究方法を理解することができる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 教科書を輪読し、その後、ディスカッションを行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(16) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(2) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(17) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(3) 組織の合理性と非合理性 [対面]	(18) 組織の合理性と非合理性 [対面]
(4) 組織の構造 [対面]	(19) 組織の構造 [対面]
(5) 組織の構造 [対面]	(20) 組織の構造 [対面]
(6) 組織の構造 [対面]	(21) 組織の構造 [対面]
(7) 組織化のプロセス [対面]	(22) 組織化のプロセス [対面]
(8) 組織化のプロセス [対面]	(23) 組織化のプロセス [対面]
(9) 組織化のプロセス [対面]	(24) 組織化のプロセス [対面]
(10) 組織と環境（組織認識論） [対面]	(25) 組織と環境（組織認識論） [対面]
(11) 組織と環境（組織認識論） [対面]	(26) 組織と環境（組織認識論） [対面]
(12) 組織と環境（組織認識論） [対面]	(27) 組織と環境（組織認識論） [対面]
(13) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]	(28) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]
(14) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]	(29) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]
(15) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]	(30) 組織行動（ミクロ組織論） [対面]
<b>[アクティブラーニング取り入れ状況]</b> 発表とディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中に課題に対する説明を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：授業時に指示する。 参考書：授業時に指示する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて	
(2) 試験以外の評価方法	

(3)成績の配分・評価基準等

教科書を輪読する。発表担当者については、レジュメ、発表態度等を評価する。それ以外の学生については、質問の頻度等を評価する。出席重視。発表担当者の当日欠席は言語道断である。

**[準備学習]**

事前学習：発表レジュメ作成（120分）

事後学習：関連文献を読む（120分）

**[授業以外の学習方法]**

古典と呼ばれる書物を（難解だが）紐解いてみよう。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本授業ではさまざまな学説を検討するが、それらは他の経営学関連科目でも取り上げられると思う。キーワードを見つけて科目と科目との関連を意識したい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3219号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：木曜日2時限・昼休み・3時限

場所：3号館2階3219号室

**[備考]**

授業内容に関する質問は3219教室で随時受け付ける。

## 労務管理論特殊研究 (Advanced Personnel and Labor Management)

<b>担当者</b>	教授 杉田 博
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 企業の海外進出に伴う雇用問題、正社員に対する非正規社員の比重拡大、また雇用形態の多様化、さらに女性労働、中高年労働、障害者雇用、若年労働の問題について、われわれはどのように考えればよいのか。本授業では、わが国の労務管理の特質、そしてその変化の動態を取り上げて考察したい。	
<b>[到達目標]</b> 現代企業における人間問題を理解し、その本質と解決策を述べることができる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 本授業は受講者の発表とディスカッションを基本とする。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) ガイダンス [対面]	(16) ガイダンス [対面]
(2) 労務管理とは何か [対面]	(17) 労務管理とは何か [対面]
(3) 日本の労務管理の特質 (1) [対面]	(18) 日本の労務管理の特質 (1) [対面]
(4) 日本の労務管理の特質 (2) [対面]	(19) 日本の労務管理の特質 (2) [対面]
(5) リクルート・採用 [対面]	(20) リクルート・採用 [対面]
(6) 社員研修の現状と課題 [対面]	(21) 社員研修の現状と課題 [対面]
(7) 賃金管理 (1) [対面]	(22) 賃金管理 (1) [対面]
(8) 賃金管理 (2) [対面]	(23) 賃金管理 (2) [対面]
(9) 賃金管理 (3) [対面]	(24) 賃金管理 (3) [対面]
(10) 職務評価 (1) [対面]	(25) 職務評価 (1) [対面]
(11) 職務評価 (2) [対面]	(26) 職務評価 (2) [対面]
(12) 管理者の役割 (1) [対面]	(27) 管理者の役割 (1) [対面]
(13) 管理者の役割 (2) [対面]	(28) 管理者の役割 (2) [対面]
(14) 管理者の役割 (3) [対面]	(29) 管理者の役割 (3) [対面]
(15) まとめ [対面]	(30) まとめ [対面]
<b>[アクティブラーニング取り入れ状況]</b> 発表とディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 解説と質疑応答を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 受講者と相談して決定する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて	
(2) 試験以外の評価方法	
(3) 成績の配分・評価基準等 発表資料の準備状況 (50%)、発表とディスカッション (50%) で評価する。	

**[準備学習]**

事前学習：発表レジュメ作成（120分）

事後学習：関連文献を読む（120分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

「経営管理論特殊研究」や「経営組織論特殊研究」と重なる領域ゆえ合わせて受講されたい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3219号室

メールアドレス：[hsugita@isenshu-u.ac.jp](mailto:hsugita@isenshu-u.ac.jp)

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時受け付ける。

場所：3号館2階3219 研究室 [hsugita@isenshu-u.ac.jp](mailto:hsugita@isenshu-u.ac.jp)

## マーケティング論特殊研究 (Advanced Marketing)

<b>担当者</b>	教授 李 東勲
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> マーケティングは、時代ごとにその時代の問題を解決すべく定義されてきた。それゆえ、現在のアナログ技術からデジタル技術への変化は、生産者のみならず消費者や社会全体にも大きな影響を及ぼしており、特に経済格差の拡大や環境破壊の進行など、人々は直面する問題に対する解決策をマーケティングに求めている。そこで、本授業では経済格差の是正という問題意識から、日本において急を要する課題である地方都市の経済活性化の方策をマーケティングの専門理論から模索する。また、今日の商店街活性化を考える際には不可欠なキーワードとなっている「まちづくり」について院生と一緒に研究していく予定である。	
<b>[到達目標]</b> マーケティングに関する専門的な関心を通して、理論的な側面と実践的な側面の両方をバランスよく理解し、各自の問題意識の発展と問題解決に応用できる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]：【対面形式】</b> 教科書の輪読やケーススタディの際には、発表担当者を決め、担当部分の内容をまとめて説明してもらい、それを土台にグループワークを行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b> —小零細小売業に関する既存研究の考察 1. 小零細小売業の定義と現状分析 [対面] 2. 小零細小売業の低迷要因 [対面] 3. 小零細小売業の概念規定① [対面] —戦前の日本経済の特殊性からの認識 4. 小零細小売業の概念規定② [対面] —戦後の相対的過剰人口の受入先 5. 中小小売業問題①—大規模小売業との対立 [対面] 6. 中小小売業問題②—問題に関する諸見解 [対面] 7. 中小企業論における小零細小売業の概念 [対面] 8. 小零細小売業の経営目的 [対面] 9. フランスにおける中小小売業の創業支援策 [対面] 10. フランスにおける大規模小売業の規制政策 [対面] 11. 日本における中小小売業の創業支援策 [対面] 12. 日本における大店法の成立と変遷 [対面] 13. まちづくり3法の再評価①—大店立地法 [対面] 14. まちづくり3法の再評価② [対面] —中心市街地活性化法 15. まちづくり3法の再評価③ [対面] —改正都市計画法	<b>[授業計画(前期)]</b> —小零細小売業に関する既存研究の考察 1. 小零細小売業の定義と現状分析 [対面] 2. 小零細小売業の低迷要因 [対面] 3. 小零細小売業の概念規定① [対面] —戦前の日本経済の特殊性からの認識 4. 小零細小売業の概念規定② [対面] —戦後の相対的過剰人口の受入先 5. 中小小売業問題①—大規模小売業との対立 [対面] 6. 中小小売業問題②—問題に関する諸見解 [対面] 7. 中小企業論における小零細小売業の概念 [対面] 8. 小零細小売業の経営目的 [対面] 9. フランスにおける中小小売業の創業支援策 [対面] 10. フランスにおける大規模小売業の規制政策 [対面] 11. 日本における中小小売業の創業支援策 [対面] 12. 日本における大店法の成立と変遷 [対面] 13. まちづくり3法の再評価①—大店立地法 [対面] 14. まちづくり3法の再評価② [対面] —中心市街地活性化法 15. まちづくり3法の再評価③ [対面] —改正都市計画法
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 博士後期課程においては研究者自身の独自のモデルを創出することが求められる。よって、本授業では先行研究のレビューに基づいた「問題発見と解決能力」の育成を念頭におきながら、授業の理解度を確認するために「各企業が目まぐるしく変化する環境にどのように対応して成功したのか、または失敗したのか」などの事例を調査し、授業内容に基づいて分析・評価するレポートを課す予定である。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 教科書やケーススタディの内容、さらにアクティブラーニングの課題などが現場ではどう利用される	



のか、またどう応用すれば良いのかについて議論しながら解説する。

#### [教科書・参考書等]

教科書：(前期) 李 東勲著『経営目的からみる小零細小売業の課題』専修大学出版局、2007年  
(後期) 岩澤孝雄著『商店街活性化と街づくり』白桃書房、1995年

参考書：出家健治著『零細小売業研究』ミネルヴァ書房、2002年  
矢吹雄平著『地域マーケティング論－地域経営の新地平』有斐閣、2003年

#### [評価方法]

(1)試験・テストについて

筆記試験は実施しない。

(2)試験以外の評価方法

本授業の評価基準は参加状況と発言頻度、発言内容、発表レジュメなどを総合的に判断し評価する。よって、十分な準備をしていない場合や発言しない人は評価が低くなる。

(3)成績の配分・評価基準等

テキストや文献資料を中心とした担当部分の報告とディスカッションを踏まえて成績の評価を行う。後期は各自の研究報告も求める。詳しくは、担当部分の報告内容・報告資料の提出(60%)、ディスカッションの展開力(30%)、授業への貢献度(10%)で評価を行う。

#### [準備学習]

事前学習：本授業は参加型の形式をとり、理解力だけでなく探究力や表現力を養うことを目指す。したがって、絶えず新聞、雑誌などに目を通して授業に参加することを求める。また、教科書をしっかり講読し、問題意識・質問を用意しなければならない。よって、教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることも求める。(120分)

事後学習：本授業では、理解力・探究力・行動力を身につけるために礎となる基本知識を学ぶので、その日勉強した内容をまず覚えるように努めなければならない。そして、授業内容と関連する事例を調べてその理解度を向上させるように取り組むことを求める。(120分)

#### [授業以外の学習方法]

教科書の内容を的確に理解するため、関連資料を調べることが必要である。特に、新聞・雑誌などは絶えず目を通してほしい。

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

マーケティングは、企業のみならず組織が持続的な成長を続ける上で、重要な戦略である。したがって、マーケティング論特殊授業を受講するに当たっては、博士後期課程に配置されている科目を総合的に勉強する必要がある。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階3210号室

メールアドレス：[ldh3210@isenshu-u.ac.jp](mailto:ldh3210@isenshu-u.ac.jp)

#### [オフィスアワー]

時間帯：随時対応する。但し、メール([ldh3210@isenshu-u.ac.jp](mailto:ldh3210@isenshu-u.ac.jp))で事前に会う約束を取るようにして下さい。

場所：3号館2階3210研究室

#### [備考・オフィスアワー]

院生の研究関心によっては相談の上で、教科書や授業内容を決定する。よって、上述した授業計画は受講生の関心によって変更可能であり、一つの例である。

## 国際比較経営論特殊研究(Advanced International Comparative Management)

担当者	教授 丸岡 泰
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 日本と海外における雇用慣行について比較検討を行う。	
<b>[到達目標]</b> 日本的雇用慣行の国際比較経営の観点からの特徴について理解を深める。 海外の雇用慣行や参加者の関心に応じた国・産業・企業の雇用事情の知識を広げる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> 【対面形式】を基本とするが、参加者との相談の上【非対面形式】の同時双方向型を取る場合もある。 学生の報告と議論を中心に授業を進める。	
<b>[授業計画]</b> (1) ガイダンス[対面] (2)～(14) 日本的雇用慣行[対面] (15) 日本的雇用慣行のまとめ[対面] (16) ガイダンス[対面] (17)～(28) 海外の雇用慣行[対面] (29)～(30) 日本的雇用慣行と海外の雇用慣行のまとめ[対面]	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 授業での報告・議論。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中にコメント。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：開講時に参加者と協議して、決めたい。 海外の雇用事情については、英語での情報収集を行いたい。 参考書：八代尚宏[1997]『日本的雇用慣行の経済学』日本経済新聞出版	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験・テストは実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 授業の準備と口頭報告・レジメの質に基づき評価する。 (3) 成績の配分・評価基準等 報告回数(70%)、報告の質(30%)。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習：問題提起するだけの深い読み方をしておくこと。(120分) 事後学習：問題提起するだけの深い読み方をしておくこと。(120分)	
<b>[科目の位置づけと他科目との関連]</b> 経済学関連の授業が前提となる。	

[担当教員へのアクセス]

研究室：3号館2階3215号館

[オフィスアワー]

時間帯：メール等でのアポに応じ実施。

maruoka(a)isenshu-u.ac.jp <(a)はアットマークに>

場所：研究室

## 地域経営論特殊研究 (Advanced Study in the Regional Management)

<b>担当者</b>	教授 庄子 真岐
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 人口減少、少子高齢化、産業の空洞化など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増している。このような状況下において、域外の資本に依存せず、ある程度自立しながら、地域を活性化していくためには、何が必要であるかを様々な角度から考察していく。	
<b>[到達目標]</b> 本科目の到達目標は、以下3つである。 1. 地域社会の現状を把握する力を身に付ける。 2. 地域における産業政策が産業構造に与える影響を分析し、政策提言できる力を身に付ける。 3. 地域におけるマネジメントの課題を認識し、解決方法を考える力を身に付ける。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> テーマに基づいた内容の文献を予習課題として提示する。 提示された文献の内容を受講生がまとめ、発表する。 発表内容について教員が補足説明した後、ディスカッションを行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 授業ガイダンス、地域社会の現状(1)人口 [対面]	(16) 授業ガイダンス、地域社会の現状(1)人口 [対面]
(2) 地域社会の現状(2)産業[対面]	(17) 地域社会の現状(2)産業[対面]
(3) 地域の状況に関する分析(1)[対面]	(18) 地域の状況に関する分析(1)[対面]
(4) 地域の状況に関する分析(2)[対面]	(19) 地域の状況に関する分析(2)[対面]
(5) 地域の状況に関する分析(3)[対面]	(20) 地域の状況に関する分析(3)[対面]
(6) 地域経済分析システム(1)[対面]	(21) 地域経済分析システム(1)[対面]
(7) 地域経済分析システム(2)[対面]	(22) 地域経済分析システム(2)[対面]
(8) 地域経済分析システム(3)[対面]	(23) 地域経済分析システム(3)[対面]
(9) 地域産業システム(1)[対面]	(24) 地域産業システム(1)[対面]
(10) 地域産業システム(2)[対面]	(25) 地域産業システム(2)[対面]
(11) 地域産業システム(3)[対面]	(26) 地域産業システム(3)[対面]
(12) 産業集積と産業クラスター(1)[対面]	(27) 産業集積と産業クラスター(1)[対面]
(13) 産業集積と産業クラスター(2)[対面]	(28) 産業集積と産業クラスター(2)[対面]
(14) 産業集積と産業クラスター(3)[対面]	(29) 産業集積と産業クラスター(3)[対面]
(15) 発表会と中間まとめ[対面]	(30) 発表会と中間まとめ[対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 毎回、学生によるプレゼンテーションもしくはディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 文献購読のまとめ、プレゼンテーション、レポート課題については、評価表(ルーブリック)を用いて相互評価を行い、講義内でフィードバックする。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 参考書：枝廣淳子(2018)「地元経済を創りなおす—分析・診断・対策—」岩波新書 藤田 昌久他(2018)「復興の空間経済学：人口減少時代の地域再生」日本経済新聞社 大野健一(2013)「産業政策のつくり方」有斐閣	

**[評価方法]**

(1) 試験・テストについて

試験は実施しない。前期後期2回のレポートを課す。

(2) 試験以外の評価方法

プレゼンテーション、文献購読、授業への貢献度（ディスカッションへの積極的参加）により評価する。

(3) 成績の配分・評価基準等

本科目は、プレゼンテーション（40%）・文献購読、レポート課題（40%）・授業への貢献度（20%）によって評価する。

**[準備学習]**

事前学習：授業中に論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込み、次週までにレジュメにまとめておくこと。

事後学習：授業中に論点に応じた文献を紹介するので、しっかり読み込み、次週までにレジュメにまとめておくこと。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

経営学に類する科目の多くは、本科目の内容と関連する。マネジメント、人的資源管理、マーケティングなどは、特に関連性が強い科目であると考えられる。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3104号室（事前にアポを取る）

Teams チャットで随時対応

**[オフィスアワー]**

時間帯：火から木 昼休み

場所：3号館1階3104号室、オンライン

**[備考]**

授業内容に関する質問は随時受け付ける。

## 会社法特殊研究 (corporation Law)

<b>担当者</b>	教授 三森 敏正	
<b>[単位・開講期]</b>		
4単位・通年		
<b>[授業概要]</b>		
本講では判例の詳細な分析および英独の会社法との比較を通じて、2020年に改正された会社法の理解を深めていくことを目的とする。授業は演習方式で、毎週担当者が課題についてレポートを行い、それをもとに議論を行う形式で行う。この他、履修者の研究状況を鑑みて対応する。		
<b>[到達目標]</b>		
会社法の主要な論点についての比較法的考察が可能となる知識の修得。		
<授業の方法>		
<b>[授業形態]</b>		
<b>【対面形式】</b>		
演習方式。		
<b>[授業計画(前期)]</b>		<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 会社の能力と目的の範囲[対面]	(16) 株主総会招集通知の欠缺[対面]	
(2)	(17) 会社の能力と目的の範囲[対面]	
(3) 法人格の否認[対面]	(18) 法人格の否認[対面]	
(4) 設立中の会社[対面]	(19) 設立中の会社[対面]	
(5) 設立の瑕疵と責任[対面]	(20) 設立の瑕疵と責任[対面]	
(6) 株主平等原則[対面]	(21) 株主平等原則[対面]	
(7) 株式の内容と種類[対面]	(22) 株式の内容と種類[対面]	
(8) 株式譲渡制限[対面]	(23) 株式譲渡制限[対面]	
(9) 自己株式[対面]	(24) 自己株式[対面]	
(10) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面]	(25) 名義書換未了の株式譲渡人の地位[対面]	
(11) 名義書換の不当拒絶[対面]	(26) 名義書換の不当拒絶[対面]	
(12) 募集株式の有利発行[対面]	(27) 募集株式の有利発行[対面]	
(13) 募集株式の不公正発行[対面]	(28) 募集株式の不公正発行[対面]	
(14) 新株発行無効[対面]	(29) 新株発行無効[対面]	
(15) 株主総会の代理人資格の制限[対面]	(30) 株主総会招集通知の欠缺[対面]	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b>		
アクティブラーニングを取り入れる。		
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b>		
毎回のレポートについて講評し、必要に応じて添削して返却する。		
<b>[教科書・参考書等]</b>		
教科書：別冊ジュリスト 会社法判例百選 [第3版]		
参考書：神田秀樹著 会社法 [第22版] 弘文堂、江頭憲治郎著 株式会社法 [第7版]		
<b>[評価方法]</b>		
(1) 試験・テストについて 実施しない。		
(2) 試験以外の評価方法 毎回の授業における報告の準備状況および研究の進捗度。		
(3) 成績の配分・評価基準等		

報告内容 6 割 討論への参加の頻度 4 割

**[準備学習]**

事前学習：履修者は、レポーターであるか否とに関わらず、各自教科書に記載されている判例・文献に目を通した上で授業に出席すること。会社法は民法の特別法であるので、民法の知識は必須である。(180 分)

事後学習：民法の知識が不十分な場合には、各自民法の基本書などを読むなどして理解しておくこと。(120 分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

学部において、財産と法、企業組織と法、株式と法の単位を修得していることを履修条件とする。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3 号館 1 階 3123 号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時。

場所：3 号館 1 階 3123 号室

## 経営学演習 (Seminar of Advanced Business Management)

担当者	専任教員
<b>[単位・開講期]</b> 1 2 単位 (3 年間)	
<b>[授業概要]</b> 博士論文の研究課題に関する文献の調査、演習および討論等を行う。	
<b>[到達目標]</b> 研究書を読破し、プレゼンをできる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】【非対面形式】</b> 指導教員の指示に基づく。 演習。	
<b>[授業計画]</b> 演習の初回に説明を行う。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告とその質疑応答。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：別途指示する。 参考書：	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 指導教員の指示に基づく。 (2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3) 成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。指定された読書範囲をよく読むこと。(120 分) 事後学習：報告した内容の精査。(120 分)	
<b>[科目の位置づけと他科目との関連]</b> 経営学演習は、先生の指導の下、博士論文を仕上げるのが目的であり、先生と相談の上、他科目の受講等、行うべきである。	
<b>[担当教員へのアクセス]</b> 研究室：指導教員の指示に基づく。	
<b>[オフィスアワー]</b> 時間帯：指導教員の指示に基づく。 場所：指導教員の指示に基づく。	



## 会計学原理特殊研究 (Advanced Accounting Theory)

<b>担当者</b>	教授 関根 慎吾
<p><b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年</p>	
<p><b>[授業概要]</b> 授業計画の内容に沿いながら、今日的企業分析の内容を体系的に究明する。</p>	
<p><b>[到達目標]</b> 同分野についての博士資格水準への到達を目標とする。</p>	
<p>〈授業の方法〉</p>	
<p><b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 授業内容の説明と報告による質疑応答。</p>	
<p><b>[授業計画(前期)]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [対面] 財務諸表を利用した企業分析のフレームワーク</li> <li>2. [対面] 経営戦略分析</li> <li>3. [対面] 会計分析の概要</li> <li>4. [対面] 資産の分析</li> <li>5. [対面] 負債および持分の分析</li> <li>6. [対面] 収益の分析</li> <li>7. [対面] 費用の分析</li> <li>8. [対面] 安全性分析 (1) -短期支払能力</li> <li>9. [対面] 安全性分析 (2) -長期支払能力</li> <li>10. [対面] 安全性分析 (3) -倒産予測の可能性</li> <li>11. [対面] 効率性分析 (1) -回転率</li> <li>12. [対面] 効率性分析 (2) -回転日数</li> <li>13. [対面] 生産性分析</li> <li>14. [対面] 収益性分析 (1) -総資産事業利益率</li> <li>15. [対面] 収益性分析 (2) -自己資本当期純利益率</li> </ol>	<p><b>[授業計画(後期)]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. [対面] 財務諸表を利用した企業分析のフレームワーク</li> <li>2. [対面] 総合評価</li> <li>32. [対面] 経営戦略分析</li> <li>43. [対面] 会計分析の概要の分析</li> <li>54. [対面] 資産性分析: 予測</li> <li>65. [対面] 負債性分析: 評価理論と概念</li> <li>76. [対面] 将来性分析: 企業評価の実際</li> <li>87. [対面] 新費用企業評価指標 (1) -伝統的な財務諸表 [対面] 安全性分析 (1) -短期支払能力</li> <li>19. [対面] 安全性分析 (2) -長期支払能力</li> <li>110. [対面] 安全性分析 (3) -倒産予測の可能性</li> <li>121. [対面] 資本性分析 (1) -回転率</li> <li>132. [対面] 効率性分析と活用 (回転日数) と 日本基準 [対面] 生産性分析</li> <li>144. [対面] 収益性分析と活用 -総資産事業利益率</li> <li>155. [対面] 収益性分析と活用 (自己資本当期純利益率) 分析</li> </ol>
<p><b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告と質疑応答。</p>	
<p><b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑によるフィードバック。</p>	
<p><b>[教科書・参考書等]</b> K.G .パルプ、P.M ヒーリー、V.Lバーナード著、斎藤静樹監訳「企業分析入門 (最新版)」(東京大学出版会) を手がかりに、授業を進めたい。</p>	
<p><b>[評価方法]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 試験・テストについて 行わない。</li> <li>(2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。</li> <li>(3) 成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。</li> </ol>	

**[準備学習]**

事前学習：報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習：報告した内容の精査。(120分)

会計学関連の諸科目および経営学の隣接分野についても広く研究してほしい。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本授業のテーマは会計学の応用分野であると同時に、隣接科学である経営戦略論、企業評価論も組み込んでいる。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3218号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：月曜日4限目

場所：3号館2階3218号室

## 簿記原理特殊研究 (Advanced Theory of Book-keeping)

<b>担当者</b>	教授 関根 慎吾		
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年			
<b>[授業概要]</b> 経済のグローバル化ないしボーダーレス化に伴う会計基準の国際的調和化の動きなどによって、社会の基本的インフラとしての会計を取り巻く環境は大きく変貌している。その中で「簿記」に対する認識も大きく変わろうとしている。本講では「簿記」を理論的、歴史的、そして未来志向として IT 技術の進展の中でどのような役割を担っていくべきかを考えていくことにする。			
<b>[到達目標]</b> 財務会計分野の博士論文の作成を志す学生諸君に役立つ知識を身につけるとともに、税理士、公認会計士等の会計専門職の資格をねらう学生諸君の計算能力の向上ならびに、実務で直面するであろう会計情報システムへの考え方の基礎を涵養することも目標としている。			
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>			
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 授業内容の説明と報告による質疑応答。			
<b>[授業計画(前期)]</b>		<b>[授業計画(前期)]</b>	
(1) [対面] 複式簿記の基本構造	(16) [対面] 複式簿記の基本構造	(17) [対面] 複式簿記の成立過程	(18) [対面] 複式簿記の伝搬
(2) [対面] 複式簿記の成立過程	(19) [対面] 現代の複式簿記観(1)—概観	(20) [対面] 現代の複式簿記観(2)—個別見解	(21) [対面] 過去簿記(1)—イギリス 1
(3) [対面] 複式簿記の伝搬	(22) [対面] 過去簿記(2)—イギリス 2	(23) [対面] 過去簿記(3)—イギリス 3	(24) [対面] 過去簿記(4)—日本 1
(4) [対面] 現代の複式簿記観(1)—概観	(25) [対面] 過去簿記(5)—日本 2	(26) [対面] 過去簿記(6)—日本 3	(27) [対面] 過去簿記(7)—韓国への導入 1
(5) [対面] 現代の複式簿記観(2)—個別見解	(28) [対面] 過去簿記(8)—韓国への導入 2	(29) [対面] 過去簿記(9)—公会計 1	(30) [対面] 過去簿記(10)—公会計 2
(6) [対面] 過去簿記(1)—イギリス 1			
(7) [対面] 過去簿記(2)—イギリス 2			
(8) [対面] 過去簿記(3)—イギリス 3			
(9) [対面] 過去簿記(4)—日本 1			
(10) [対面] 過去簿記(5)—日本 2			
(11) [対面] 過去簿記(6)—日本 3			
(12) [対面] 過去簿記(7)—韓国への導入 1			
(13) [対面] 過去簿記(8)—韓国への導入 2			
(14) [対面] 過去簿記(9)—公会計 1			
(15) [対面] 過去簿記(10)—公会計 2			
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告と質疑応答。			
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。			
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：中野常男編著『複式簿記の構造と機能』同文館出版、2007年 参考書：無し			
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 行わない。 (2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。			

(3)成績の配分・評価基準等

レポートと授業中のディスカッションを総合的に判断して評価する。

**[準備学習]**

事前学習：報告準備のための文献調査。(120分)

事後学習：報告した内容の精査。(120分)

事前に課題を提示し、その課題に対する自分なりの考えを纏めてもらい、授業終了後にその結果をレポートとして提示してもらおう。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

本授業は、会計学全般ならびに経営管理、財務論等の知識を基礎としているので、管理会計論特殊研究、会計学原理特殊研究、経営管理特殊研究等の授業をあわせて履修することが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3218号室

**[オフィスアワー]**

時間帯：月曜日4限目

場所：3号館2階3218号室

## 租税法特殊研究 (Advanced Tax Law)

<b>担当者</b>	教授 岡野 知子	
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年		
<b>[授業概要]</b> ①租税法の意義と性質の理解 ②租税法の基本原則である租税法律主義、租税公平主義の内容の理解 ③租税実体法の課税要件の理解 ④租税判例研究 以上の4項目について下記の授業計画に従い修得する。		
<b>[到達目標]</b> 社会における租税の意義とその重要性を理解したうえで、理論と制度の両面から租税法を修得する		
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>		
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 授業計画に沿った内容の説明と質疑応答。		
<b>[授業計画(前期)]</b>		<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 租税の意義 [対面]		(16) 租税の意義 [対面]
(2) 租税の根拠 [対面]		(17) 租税の根拠 [対面]
(3) 租税法の意義 [対面]		(18) 租税法の意義 [対面]
(4) 租税制度の沿革 [対面]		(19) 租税制度の沿革 [対面]
(5) 租税法の基本原則 ① (租税法律主義) [対面]		(20) 租税法の基本原則 ① (租税法律主義) [対面]
(6) 租税法の基本原則 ② (租税公平主義) [対面]		(21) 租税法の基本原則 ② (租税公平主義) [対面]
(7) 租税法の基本原則 ③ (自主財政主義) [対面]		(22) 租税法の基本原則 ③ (自主財政主義) [対面]
(8) 租税法の法源 [対面]		(23) 租税法の法源 [対面]
(9) 租税法の解釈と適用 [対面]		(24) 租税法の解釈と適用 [対面]
(10) 租税実体法の意義 [対面]		(25) 租税実体法の意義 [対面] [対面]
(11) 租税要件総論① (納税義務者) [対面]		(26) 租税要件総論① (納税義務者) [対面]
(12) 租税法の基本原則② (課税物件) [対面]		(27) 租税法の基本原則② (課税物件) [対面]
(13) 租税法の基本原則③ (課税標準と税率) [対面]		(28) 租税法の基本原則③ (課税標準と税率) [対面]
(14) 課税要件各論①(総説) [対面]		(29) 課税要件各論①(総説) [対面]
(15) 課税要件各論②(総説) [対面]		(30) 課税要件各論②(総説) [対面]
各授業では、事前学習(授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集)後、授業でディスカッションをおこない、事後学習(授業で習得した内容の復習)をおこなうこと。		
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 授業でレジュメ等をもとにディスカッションを行う。		
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> ディスカッション後の提出レポートにコメントを付し返却する。		
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書: 金子 宏著 『租税法』第23版 弘文堂 6,500円+税 参考書: 適宜紹介する。		

### **[評価方法]**

- (1) 試験・テストについて  
実施しない。
- (2) 試験以外の評価方法  
レジュメ、報告内容、ディスカッション内容・参加度による評価方法。
- (3) 成績の配分・評価基準等  
レジュメ、報告、ディスカッションにより総合的に評価する。

### **[準備学習]**

- 事前学習：授業のテーマに沿ったレジュメの作成および資料収集。(120分)  
事後学習：授業で習得した内容の復習。(120分)

### **[授業以外の学習方法]**

- ・雑誌掲載論文、書籍、新聞等の資料収集
- ・レジュメおよび論文作成方法の習得、Power Point による報告内容の作成およびプレゼンテーションの練習
- ・ディスカッションへの活発な参加

### **[科目の位置づけと他科目との関連]**

会計科目、民法、会社法と密接な関係があるので、併せて受講または研究してほしい。

### **[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3209号室

### **[オフィスアワー]**

時間帯：授業終了後または昼休み  
場所：研究室（3号館2階3209号室）

### **[備考]**

質問はメールにても受け付ける。

## 会計学演習 (Research in Accounting)

担当者	専任教員
<b>[単位・開講期]</b> 1 2 単位 (3 年間)	
<b>[授業概要]</b> 博士論文の研究課題に関する文献の調査、演習および討論等を行う。	
<b>[到達目標]</b> 研究書を読破し、プレゼンをできる。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> 【対面形式】【非対面形式】指導教員に基づく。 演習。	
<b>[授業計画]</b> 論文テーマの選定と論文作成のための質疑応答を毎回行う。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> 報告とその質疑応答。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 質疑応答によるフィードバック。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 別途指示する。	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 行わない。 (2) 試験以外の評価方法 報告に関する質疑の内容。 (3) 成績の配分・評価基準等 発表・討論等の状況を総合的に評価する。	
<b>[準備学習]</b> 事前学習：論文テーマに関する文献調査、報告準備。(120 分) 事後学習：報告した内容の精査。(120 分) 博士論文のテーマに関する調査研究は元より、会計学関連の諸科目についても広く研究してほしい。	
<b>[科目の位置づけと他科目との関連]</b> 同上	
<b>[担当教員へのアクセス]</b> 研究室：指導教員の指示に基づく。	
<b>[オフィスアワー]</b> 時間帯：指導教員の指示に基づく。 場所：指導教員の指示に基づく。	

## 経営統計学特殊研究 (Advanced Business Statistics)

<b>担当者</b>	教授 浅沼 大樹
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 経済・経営で見られる様々なデータの統計的扱いを確実にするため、多数の例からそのエッセンスを学ぶ。十分理解したうえで、実際のデータを処理するプログラムを作っていく。	
<b>[到達目標]</b> 適切な統計手法によりデータを解析し、結果として出てきた数値について説明ができることを目的とする。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 担当を決めて和訳した後、内容についての演習を行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) データ収集(1) [対面]	(16) データ収集(1) [対面]
(2) データ収集(2) [対面]	(17) データ収集(2) [対面]
(3) データ収集(3) [対面]	(18) データ収集(3) [対面]
(4) データのまとめ方とグラフ(1) [対面]	(19) データのまとめ方とグラフ(1) [対面]
(5) データのまとめ方とグラフ(2) [対面]	(20) データのまとめ方とグラフ(2) [対面]
(6) データのまとめ方とグラフ(3) [対面]	(21) データのまとめ方とグラフ(3) [対面]
(7) 確率(1) [対面]	(22) 確率(1) [対面]
(8) 確率(2) [対面]	(23) 確率(2) [対面]
(9) 確率(3) [対面]	(24) 確率(3) [対面]
(10) 確率(4) [対面]	(25) 確率(4) [対面]
(11) 確率(5) [対面]	(26) 確率(5) [対面]
(12) 確率分布(1) [対面]	(27) 確率分布(1) [対面]
(13) 確率分布(2) [対面]	(28) 確率分布(2) [対面]
(14) 確率分布(3) [対面]	(29) 確率分布(3) [対面]
(15) 確率分布(4) [対面]	(30) 確率分布(4) [対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> アクティブラーニングは実施しない。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 課題提出後に解説を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 学生と相談のうえ決定するが、以下の文献を考えている。 教科書：Mark L. Berenson, BASIC BUSINESS STATISTICS, Prentice Hall, 2011. 参考書： その他、随時紹介する。	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 実施しない。 (2) 試験以外の評価方法	



レポートと発表による評価。

(3)成績の配分・評価基準等

出席状況とレポートにより評価する。

**[準備学習]**

事前学習：ソフトウェアの可読性、相互依存性について、事前学習しておくこと。(120分)

事後学習：基礎的部分については、和書を使ってもよいので復習しておく事。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

課題によっては、関連科目の履修が必須となる場合がある。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：授業時に伝える。

**[オフィスアワー]**

時間帯：相談や質問には適宜応じる。

場所：

**[備考]**

相談や質問には適宜応じる。積極的に受講してほしい。

## 情報システム構成論特殊研究 (Advanced Study in Information Systems Design)

<b>担当者</b>	教授 湊 信吾
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 情報システムの構成として様々なアーキテクチャが提案されている。代表的なものとしてクラウドにサービスの運用や管理をまかせるサーバレス・アーキテクチャや従来のモノリシック（一枚岩）的なサービスを機能別に運用・管理するマイクロサービス・アーキテクチャがある。授業ではマイクロサービス・アーキテクチャを取り上げ、マイクロサービス・アーキテクチャを使用したシステムの開発手法について解説するとともに、サービスを実現するための言語として Go を使用しとして実際に Web アプリケーションの開発を行ってみる。	
<b>[到達目標]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロサービス・アーキテクチャについて理解を深めることができるようになる。</li> <li>・マイクロサービス・アーキテクチャを使用した情報システムを構築できるようになる</li> <li>・Go 言語を使用して並列化、分散化などの技術をについて理解を深めることができる</li> <li>・Go 言語を使用した情報システムを構築できるようになる</li> </ul>	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：Mat Ryer, 柴田 芳樹 訳、Go 言語による Web アプリケーション開発、オライリー・ジャパン、2016 Sam Newman, 佐藤 直生 訳、マイクロサービスアーキテクチャ、オライリー・ジャパン、2016 Neal Ford, Rebecca Parsons and Patrick Kua, 島田 浩二 訳、進化的アーキテクチャ—絶え間ない変化を支える、オライリー・ジャパン、2018 参考書：Alan A. Donovan and Brian W. Kernighan、鶴飼 文敏 監訳、牧野 聡 訳、プログラミング言語 Go、丸善出版、2016	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験は行わない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回、授業の振り返りのために簡単なレポートを提出してもらおう。また、授業や実習への取り組み方、質問に対する用語の適切な使い方、プログラミングの能力について評価を行う。 (3) 成績の配分・評価基準など 毎回のレポートと実習により評価を行う。毎回のレポートにおいては授業でどのようなことを行い専門的な用語を理解しているか、実習においては作業の進行状況を見て評価を行う。実習におけるプロジェクトの進行状況（45%）、質問に対する用語の適切な使い方（25%）、プログラミング（30%）の配分となる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(後期)]</b>
(1) オリエンテーション、前期の授業で必要なものについて	(1) オリエンテーション、後期の実習に必要な環境について
(2) ソフトウェアアーキテクチャについて	(2) プログラミングの実行環境の準備
(3) 適応度関数について	(3) Go プログラミングの基本
(4) モノリシック・アーキテクチャ	(4) Go プログラミングの特徴
(5) イベントドリブン・アーキテクチャ	(5) WebSocket を使ったチャットアプリケーション
(6) サービス指向・アーキテクチャ	ョン
(7) サーバレス・アーキテクチャ	(6) 認証機能の追加
(8) マイクロサービスについて	(7) プロフィール画像の追加
(9) サービスのモデル化	(8) ドメイン名の検索

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| (10) モノリスの分割                                | (9) 分散システムと柔軟なデータの処理             |
| (11) デプロイについて                               | (10) REST 形式でデータや機能を公開する         |
| (12) テストについて                                | (11) ランダムなお勧めを提示する Web サービス      |
| (13) 監視とセキュリティ                              | (12) ファイルシステムのバックアップ             |
| (14) システム設計と大規模なマイクロサービス                    | (13) マイクロサービス化                   |
| (15) マイクロサービス・アーキテクチャを使用した情報システムについてプレゼンを行う | (14) マイクロサービス化の検証                |
| てもらおう                                       | (15) 実習で作成した情報システムについてのプレゼンテーション |

#### [アクティブラーニング取り入れ状況]

プログラミングの実習を行う。課題についてプレゼンテーションを行ってもらおう。

#### [授業形態]

前期は教科書をもとに説明を行う。後期は教科書をもとに説明と実習を行う。

#### [課題に対するフィードバック方法]

疑問に思った点についてはすぐに質問してもらいたい。その時に自分がわからない部分について相手に質問の意図がはっきりわかるように説明してもらいたい。時間外においてはメールで質問してもらおう。当日中に回答する予定である。

#### [準備学習]

事前学習：Go のプログラミングに慣れておく必要があるので参考書や Web 上の情報をもとに勉強することが望ましい。(120 分)

事後学習：授業で出てきたプログラムや専門用語について復習しておくこと。(120 分)

#### [科目の位置づけと他科目との関連]

修士課程における情報システム構成論特論を受講していることを前提として授業を進める。また、学部においてアルゴリズムやプログラミング、オペレーティングシステム、通信ネットワークに関する授業を履修しておくことが望ましい。

#### [担当教員へのアクセス]

研究室：3 号館 1 階 3126 号室

メールアドレス：minato@isenshu-u.ac.jp

#### [オフィスアワー]

3 号館 1 階の研究室 3126 で随時対応。メールにてアポを取ること。

メールアドレス：minato@isenshu-u.ac.jp

## 情報ネットワーク論特殊研究 (Advanced Study on Internet Programming)

<b>担当者</b>	教授 湊 信吾
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 現在、量子コンピュータのハードウェアやアルゴリズムが研究されている。量子コンピュータは今後世の中に普及していくものと思われる。授業では量子コンピュータを取り上げて基本から解説していく。また、量子コンピュータに関わるプログラミングについて実習を行う。 前期は量子力学に必要な数学について経営の学生にも理解できるように解説する。続いて量子力学の基本について解説する。最後に量子コンピュータの原理を理解できるところまで話を進める。 後期は量子コンピュータを使用することを前提としたプログラミングの実習を行う。プログラミング言語として Python を使用する。最後に経営においてどのようなデータ分析に利用することができそうかについて調べ発表してもらおう。	
<b>[到達目標]</b> ・量子力学の考え方を理解できるようになる。 ・量子コンピュータの原理について理解できるようになる。 ・量子コンピュータを使用することを前提としたプログラミングを行うことができるようになる。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：量子コンピュータ、竹内繁樹、講談社ブルーバックス 参考書：インターフェース 2019年3月号、算数&電子工作から始める量子コンピュータ、CQ出版社	
<b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 試験は行わない。 (2) 試験以外の評価方法 毎回、授業の振り返りのために簡単なレポートを提出してもらおう。また、専門用語の理解、質問に対する用語の適切な使い方、プログラミングの能力に対し評価を行う。 (3) 成績の配分・評価基準など 毎回のレポートと実習により評価を行う。毎回のレポートにおいては専門用語を理解しているか、実習においては作業の進行状況を見て評価を行う。量子コンピューティングに関わる用語の理解（60%）、プログラミング（40%）の配分となる。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(後期)]</b>
(1) オリエンテーション	(1) オリエンテーション
(2) 複素数について理解する	(2) Python の実行環境の準備
(3) 数列、行列について理解する	(3) Python プログラミングの基礎
(4) 行列の計算	(4) Python による複素数の扱い方
(5) 微分について理解する	(5) Python による行列計算
(6) 積分について理解する	(6) Python による簡単な量子力学の計算
(7) 量子について	(7) Python で量子プログラミングを行うための準備
(8) 量子力学の考え方	(8) 量子ビット
(9) 量子コンピュータについて	(9) 量子ゲート
(10) 量子ビット	(10) 量子回路の設計について
(11) 量子ゲート	(11) 量子回路のプログラミング
(12) 量子回路	(12) 量子アルゴリズムによる計算
(13) 量子アルゴリズム	(13) 量子暗号のシミュレーション
(14) 量子暗号について	(14) 量子コンピュータは経営の分野で利用できるかについてリサーチする
(15) 量子コンピューティングの現状について 調べプレゼンテーションしてもらおう	(15) 量子コンピュータは経営の分野で利用できる

きるかについてプレゼンテーションを行う

**[アクティブラーニング取り入れ状況]**

プログラミングの実習や、与えられた課題についてプレゼンテーションを行ってもらう。

**[授業形態]**

毎回テキストを用意するので、これをもとに説明と実習を行う。

**[課題に対するフィードバック方法]**

振り返り用のレポートをもとに学生が理解しやすいようにテキストや実習を見直していく。

**[準備学習]**

事前学習：この授業では、量子コンピュータという最新的话题を取り上げるため数学の知識が必要になってくる。授業では学生の進度に合わせて具体的に説明していくが予習や復習をして理解を深めるようにしてもらいたい。(120分)

事後学習：数学や量子力学の考え方について理解し慣れるためには復習を行う必要がある。疑問に思った点についてはすぐに質問してもらいたい。その時に自分がわからない部分について相手に質問の意図がはっきりわかるように説明してもらいたい。時間外においてはメールで質問してもらう。当日中に回答する予定である。(120分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

数学、物理学、経済学、統計学の基本を身につけておくことが望ましいが必須ではない。またプログラミングに関わる授業や実習を履修し、プログラミングの基本を身につけておく必要がある。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3126号室

メールアドレス：minato@isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時対応。メールにてアポを取ること。

場所：3号館1階3126号室

## 情報資源管理論特殊研究 (Advanced Study in the Security of Information Resources)

<b>担当者</b>	教授 佐々木 万亀夫
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 情報通信技術はその技術的進歩及び利用範囲の拡大により現代社会の重要なインフラストラクチャーとしての地位を確立した。この反面でネットワークシステム等に障害が発生した場合には社会が多なる損失を被るようになった。そのため、ネットワーク、ホストコンピュータ、端末、ソフトウェア等の情報資源の管理が必要不可欠になっている。本授業では、Business Information System を例にとり、情報通信技術の技術的な側面及び人的マネジメントの側面から情報資源管理に関して理論的かつ実践的な方法論を研究する。	
<b>[到達目標]</b> 情報システムに関する文献・資料は、日本語で書かれているものであっても元をたどれば洋書である場合が多い。そこで、Business Information System に関する洋書を研究することにより、新しい知見を得ることを本授業の到達目標とする。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 文献講読が中心の「講義・演習」形式である。	
<b>[授業計画]</b>	
(1) Basic concepts [対面]	
(2) Data and information [対面]	
(3) Creating information [対面]	
(4) Qualities of information [対面]	
(5) The Business environment [対面]	
(6) Different types of systems [対面]	
(7) Business information systems [対面]	
(8) Categories of business information systems [対面]	
(9) Network components [対面]	
(10) The evolution of networking technology [対面]	
(11) Business applications of information systems [対面]	
(12) Acquiring and developing BIS [対面]	
(13) Initiating systems development [対面]	
(14) Risk management [対面]	
(15) BIS project management [対面]	
(16) The project management process [対面]	
(17) Systems analysis [対面]	
(18) Aims of system design [対面]	
(19) Constrains on system design [対面]	
(20) Elements of design [対面]	
(21) System build, implementation and Maintenance [対面]	
(22) BIS strategy [対面]	
(23) Strategy process models [対面]	
(24) Managing e-business [対面]	
(25) E-business strategy [対面]	
(26) Managing e-business infrastructure [対面]	
(27) Managing information security [対面]	
(28) Types of controls [対面]	

(29) End-user computing – providing end-user services [対面]

(30) Ethical, legal and moral constraints on information systems [対面]

ディスカッションを適宜授業中に行う。

**[アクティブラーニングの取り入れ状況]**

ディスカッションを行う。

**[課題に対するフィードバック方法]**

授業中に適宜フィードバックをする。

**[教科書・参考書等]**

教科書： Paul Bocij et. al, “BUSINESS INFORMATION SYSTEMS”,  
Pearson Prentice Hall (2006) 6,000～8,000 円 (為替相場による)

参考書： 随時指示する。

**[評価方法]**

(1) 試験・テストについて

実施しない。

(2) 試験以外の評価方法

教科書の内容理解等の平常点。

(3) 成績の配分・評価基準等

教科書の内容研究等を平常点 (100%) として評価する。試験を行わない予定であるが、研究内容のレベルが低い場合はレポートの提出をしてもらう。

**[準備学習]**

教科書の予習および復習が必要である。特に、テキストが洋書であるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習：教科書の予習 (180 分)

事後学習：教科書の予習および復習 (60 分)

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

英語の読解力養成のため、併せて外国語専門文献研究を履修することが望ましい。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室： 3 号館 1 階 3120 号室

メールアドレス： msasaki@isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯： 随時

場所： 3120 研究室

**[備考]**

特になし。

シミュレーション論特殊研究 (Advanced Simulation)

<b>担当者</b>	教授 日野 博明
<b>[単位・開講期]</b> 4単位・通年	
<b>[授業概要]</b> シミュレーションモデルを作り上げるためには、多方面の分野にまたがる知識が重要であり、その多くが数学的な背景を持っている。そのため、本格的なシミュレーションを目指すためには、ここを避けては通れない。また、経営工学的な部分としてオペレーションズ・リサーチも欠かせない分野である。 このような見地から数量化、関数、確率などを含めて、総合的に演習を含めながら進め、経営学的に有用なシミュレーションとなるように作り上げていく	
<b>[到達目標]</b> 適切な手法の選択により、明確なモデル設計を目標とする。	
<b>&lt;授業の方法&gt;</b>	
<b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b> 資料に基づいて説明をした後に実習を行う。	
<b>[授業計画(前期)]</b>	<b>[授業計画(前期)]</b>
(1) 整数論 1 [対面]	(16) 整数論 1 [対面]
(2) 整数論 2 [対面]	(17) 整数論 2 [対面]
(3) 整数論 3 [対面]	(18) 整数論 3 [対面]
(4) 整数論 4 [対面]	(19) 整数論 4 [対面]
(5) 微積分 1 [対面]	(20) 微積分 1 [対面]
(6) 微積分 2 [対面]	(21) 微積分 2 [対面]
(7) 最適化 1 [対面]	(22) 最適化 1 [対面]
(8) 最適化 2 [対面]	(23) 最適化 2 [対面]
(9) 最適化 3 [対面]	(24) 最適化 3 [対面]
(10) シミュレーションモデル研究 1 [対面]	(25) シミュレーションモデル研究 1 [対面]
(11) シミュレーションモデル研究 2 [対面]	(26) シミュレーションモデル研究 2 [対面]
(12) シミュレーションモデル研究 3 [対面]	(27) シミュレーションモデル研究 3 [対面]
(13) 暗号のアルゴリズム・プログラム 1 [対面]	(28) 暗号のアルゴリズム・プログラム 1 [対面]
(14) 暗号のアルゴリズム・プログラム 2 [対面]	(29) 暗号のアルゴリズム・プログラム 2 [対面]
(15) 暗号のアルゴリズム・プログラム 3 [対面]	(30) 暗号のアルゴリズム・プログラム 3 [対面]
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> アクティブラーニングは実施しない。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 課題提出後に解説を行う。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：特に指定しない 参考書：関根智明・高橋磐郎・若山邦紘著「シミュレーション」日科技連 近藤次郎著「数学モデル入門」日科技連 石村園子著「やさしく学べる微分積分」 共立出版 結城浩著「暗号技術入門」ソフトバンクパブリッシング 森雅夫・森戸進 他著「オペレーションズ・リサーチ I、II」朝倉書店	
<b>[評価方法]</b>	



(1) 試験・テストについて  
実施しない。

(2) 試験以外の評価方法  
レポートと課題モデルによる評価。

(3) 成績の配分・評価基準等  
毎回のレポート（50%）と課題モデル（50%）により評価する。

**[準備学習]**

事前学習：ソフトウェアの可読性、相互依存性について、事前学習しておくこと。（120分）

事後学習：数学モデルについての理解が必要となるので、基礎的部分については、事前に復習しておく事。（120分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

経営学、オペレーションズ・リサーチ等、シミュレーションを行う上で、必要な部分を各自学んでおく事。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館2階3224号館

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時。授業終了後でも可。

場所：研究室3号館2階3224号館

## 経営情報学演習 (Seminar of Business Information Theory)

担当者	専任教員																																
<p><b>[単位・開講期]</b> 12単位(3年間)</p>																																	
<p><b>[授業概要]</b> 「経営情報学演習」では、「経営情報学」という専攻分野の枠内で、博士論文作成のための研究指導を行う。各々の研究テーマを設定した学生は、演習担当教員の指導のもと、文献の講読、資料の収集、調査分析等を行い、適当な時期に発表・討論しながら、さらにその研究を深めていき、最終的には博士論文の作成へと繋げる。</p>																																	
<p><b>[到達目標]</b> 各演習担当教員の研究指導の下で研究能力を高め、各自の研究課題について博士論文をまとめる。</p>																																	
<p>〈授業の方法〉</p>																																	
<p><b>[授業形態]</b> <b>【対面形式】</b>を基本とする。 指導教員の指示に基づく。 文献講読、資料の分析、調査を行う。「講義・演習」形式である。</p>																																	
<p><b>[授業計画]</b> 演習の初回に担当教員より説明があるが、概ね以下のような計画である。2年次には1年次の研究を深化し、3年次には博士論文執筆の指導を行なう。</p> <table border="0"> <tr> <td>(前期)</td> <td>(後期)</td> </tr> <tr> <td>(1) 研究テーマの決定</td> <td>(16) 研究テーマの決定</td> </tr> <tr> <td>(2) 研究計画作成</td> <td>(17) 研究計画作成</td> </tr> <tr> <td>(3) 研究テーマに関する文献の講読1</td> <td>(18) 研究テーマに関する文献の講読1</td> </tr> <tr> <td>(4) 研究テーマに関する文献の講読2</td> <td>(19) 研究テーマに関する文献の講読2</td> </tr> <tr> <td>(5) 研究テーマに関する文献の講読3</td> <td>(20) 研究テーマに関する文献の講読3</td> </tr> <tr> <td>(6) 研究テーマに関する文献の講読4</td> <td>(21) 研究テーマに関する文献の講読4</td> </tr> <tr> <td>(7) 研究テーマに関する文献の講読5</td> <td>(22) 研究テーマに関する文献の講読5</td> </tr> <tr> <td>(8) 研究テーマに関する資料の精査1</td> <td>(23) 研究テーマに関する資料の精査1</td> </tr> <tr> <td>(9) 研究テーマに関する資料の精査2</td> <td>(24) 研究テーマに関する資料の精査2</td> </tr> <tr> <td>(10) 研究テーマに関する資料の精査3</td> <td>(25) 研究テーマに関する資料の精査3</td> </tr> <tr> <td>(11) 研究テーマに関する資料の精査4</td> <td>(26) 研究テーマに関する資料の精査4</td> </tr> <tr> <td>(12) 研究テーマに関する資料の精査5</td> <td>(27) 研究テーマに関する資料の精査5</td> </tr> <tr> <td>(13) 研究テーマに関する調査分析1</td> <td>(28) 研究テーマに関する調査分析1</td> </tr> <tr> <td>(14) 研究テーマに関する調査分析2</td> <td>(29) 研究テーマに関する調査分析2</td> </tr> <tr> <td>(15) 研究テーマに関する調査分析3</td> <td>(30) 研究テーマに関する調査分析3</td> </tr> </table> <p>ディスカッションを適宜授業中に行う。</p>		(前期)	(後期)	(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定	(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成	(3) 研究テーマに関する文献の講読1	(18) 研究テーマに関する文献の講読1	(4) 研究テーマに関する文献の講読2	(19) 研究テーマに関する文献の講読2	(5) 研究テーマに関する文献の講読3	(20) 研究テーマに関する文献の講読3	(6) 研究テーマに関する文献の講読4	(21) 研究テーマに関する文献の講読4	(7) 研究テーマに関する文献の講読5	(22) 研究テーマに関する文献の講読5	(8) 研究テーマに関する資料の精査1	(23) 研究テーマに関する資料の精査1	(9) 研究テーマに関する資料の精査2	(24) 研究テーマに関する資料の精査2	(10) 研究テーマに関する資料の精査3	(25) 研究テーマに関する資料の精査3	(11) 研究テーマに関する資料の精査4	(26) 研究テーマに関する資料の精査4	(12) 研究テーマに関する資料の精査5	(27) 研究テーマに関する資料の精査5	(13) 研究テーマに関する調査分析1	(28) 研究テーマに関する調査分析1	(14) 研究テーマに関する調査分析2	(29) 研究テーマに関する調査分析2	(15) 研究テーマに関する調査分析3	(30) 研究テーマに関する調査分析3
(前期)	(後期)																																
(1) 研究テーマの決定	(16) 研究テーマの決定																																
(2) 研究計画作成	(17) 研究計画作成																																
(3) 研究テーマに関する文献の講読1	(18) 研究テーマに関する文献の講読1																																
(4) 研究テーマに関する文献の講読2	(19) 研究テーマに関する文献の講読2																																
(5) 研究テーマに関する文献の講読3	(20) 研究テーマに関する文献の講読3																																
(6) 研究テーマに関する文献の講読4	(21) 研究テーマに関する文献の講読4																																
(7) 研究テーマに関する文献の講読5	(22) 研究テーマに関する文献の講読5																																
(8) 研究テーマに関する資料の精査1	(23) 研究テーマに関する資料の精査1																																
(9) 研究テーマに関する資料の精査2	(24) 研究テーマに関する資料の精査2																																
(10) 研究テーマに関する資料の精査3	(25) 研究テーマに関する資料の精査3																																
(11) 研究テーマに関する資料の精査4	(26) 研究テーマに関する資料の精査4																																
(12) 研究テーマに関する資料の精査5	(27) 研究テーマに関する資料の精査5																																
(13) 研究テーマに関する調査分析1	(28) 研究テーマに関する調査分析1																																
(14) 研究テーマに関する調査分析2	(29) 研究テーマに関する調査分析2																																
(15) 研究テーマに関する調査分析3	(30) 研究テーマに関する調査分析3																																
<p><b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> ディスカッション、資料の分析、調査は、アクティブラーニングそのものである。</p>																																	
<p><b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中に適宜フィードバックをする。</p>																																	
<p><b>[教科書・参考書等]</b> 担当教員より別途指示する。</p>																																	
<p><b>[評価方法]</b> (1) 試験・テストについて 担当教員より別途指示する。</p>																																	

(2) 試験以外の評価方法

担当教員より別途指示する。

(3) 成績の配分・評価基準等

討論の状況（20%）、論文内容（60%）、論文発表（20%）により評価する。

**[準備学習]**

担当教員より別途指示するが、合計で240分必要。

事前学習：事後学習と合わせて240分。

事後学習：事前学習と合わせて240分。

**[授業以外の学習方法]**

博士論文を執筆するにあたり、授業以外の時間を十分に活用して、必要な資料の収集、調査分析等を継続的に行なう必要がある。また、大学院生相互に研究に関する議論を活発に行なうこと。

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

各学生が設定したテーマの博士論文作成のための研究指導を行うが、そのために履修が必要な科目については別途指示する。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：担当教員より別途指示する。

メールアドレス：担当教員より別途指示する。

**[オフィスアワー]**

時間帯：担当教員より別途指示する。

場所：担当教員より別途指示する。

**[備考]**

研究進行状況等について、各演習担当教員とのコミュニケーションを欠かさないこと。

## 外国語専門文献研究 (Advanced Foreign Treatises)

担当者	教授 佐々木 万亀夫
<b>[単位・開講期]</b> 隔週、2単位・通年	
<b>[授業概要]</b> 外国語の専門の文献を講読もしくは輪読をするが、それ自体を目的としているものではない。文献の研究をし、その内容を理解することは勿論のこと、その理解に基づいて受講者自身が各々の考えを述べディスカッションをする。また、互いの意見を理解・尊重することによって各々の理解を深化させる。	
<b>[到達目標]</b> 外国語の文献の読解になれることは勿論のこと、受講者がディスカッション等を通して、文献の中から新しい知見を得ることができるようになることが目標である。	
〈授業の方法〉	
<b>[授業形態]</b>	
<b>【対面形式】</b> 文献講読が中心の「講義・演習」形式である。	
<b>[授業計画]</b>	
(1) Introduction to Project Management [対面]	
(2) Factors for Project Management [対面]	
(3) Defining the Project Task [対面]	
(4) Estimating the Project Costs [対面]	
(5) First Steps in Planning the Timescale [対面]	
(6) Financial Appraisal and the Business Plan [対面]	
(7) Risk [対面]	
(8) Project Authorization [対面]	
(9) Project Organization Structures [対面]	
(10) Key People in the Organization [対面]	
(11) Work Breakdown and Coding [対面]	
(12) Completing the Breakdown Structures [対面]	
(13) Principles of Resource Scheduling [対面]	
(14) Scheduling Materials [対面]	
(15) Aspects of Commercial Management [対面]	
ディスカッションを適宜授業中に行う。	
<b>[アクティブラーニングの取り入れ状況]</b> ディスカッションを行う。	
<b>[課題に対するフィードバック方法]</b> 授業中に適宜フィードバックをする。	
<b>[教科書・参考書等]</b> 教科書：Dennis Lock, ” Project Management” ,GOWER(2007) 5,000～6,000 円 (為替相場による) 参考書：適宜指示する。	
<b>[評価方法]</b>	
(1) 試験・テストについて 実施しない。	
(2) 試験以外の評価方法	

教科書の内容理解等の平常点。

(3)成績の配分・評価基準等

受講者は毎回予め決められた講読部分を全訳して授業に参加することになるので、その訳出の仕方及び授業中のディスカッションの仕方を平常点（100%）として評価する。

**[準備学習]**

教科書の予習および復習が必要である。外国書がテキストであるため、予習には多くの時間を割いてもらいたい。

事前学習：教科書の予習（180分）

事後学習：教科書の予習および復習（60分）

**[科目の位置づけと他科目との関連]**

外国文献を講読する訓練であると同時に経営学・社会科学の基本的な問題のディスカッションの場である。

**[担当教員へのアクセス]**

研究室：3号館1階3120号室

メールアドレス：msasaki@isenshu-u.ac.jp

**[オフィスアワー]**

時間帯：随時

場所：3120 研究室

**[備考]**

特になし。